取 扱 説 明 書

共立ウッドチッパー

KCM141

警告
ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。 取扱説明書の指示内容を守ってください。 守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

No.11219010201
090926

目　次

危険防止のために ……1
ラベルについて ……3
本機の使用目的・主要諸元 ……10
各部の名称 ……11
運転を始める前に！ ……12
始業点検 ……12
上手に運転するには（1） ……14
エンジンの始動のしかた ……14
発進のしかた ……16
停止のしかた ……17
変速のしかた ……18
旋回のしかた ……19
トラックへの積み降ろしのしかた ……19
ロータクラッチの入切のしかた ……21
送りローラ操作のしかた ……21
粉砕モード切替のしかた ……22
正送り非常停止のしかた ……22
排出ダクトの固定と排出方向 ……23
上手に運転するには（2）　～ナイフの交換手順と注意事項～ ……24
チッパーナイフの反転・交換 ……24
受刃の反転・交換 ……26
受刃の調整 ……27
粉砕作業の注意点 ……28
定期の点検・整備をするには ……31
オイル交換 ……31
パワーパック ……32
油圧ホース ……33
走行クラッチ ……33
駐車ブレーキ ……34
サイドクラッチ ……36
ロータベルト ……36
パワーパックベルト ……40
クローラ ……41
バッテリ ……42
エンジン ……43
給油・注油するところ ……47
締め付けするところ ……50
作業後の手入れ／長期保管 ……53
作業後の手入れ ……53
長期保管 ……54
注意 ……54
消耗部品一覧表 ……55
こんなトラブルが起ったら ……56
送り制御チェック項目一覧 ……57
万一の事故に備えて ……58
お客様へ ……59

危険防止のために

本書及び本機では、危険度の高さ(または事故の大きさ)にしたがって、警告用語を以下の様に分類しています。以下の警告用語が持つ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

危　険
差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
警　告
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
注　意
潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中･軽症を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。

注　　意
1. この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐに取り出せる所に必ず保管して下さい。 2. この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管して下さい。 3. この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合は、借りて作業をする者に、この取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与して下さい。 4. 製品を譲渡する場合は、この取扱説明書を製品に添付して下さい。

注　　意
1. 本機を運転する者は、本機の取扱説明書をよく読み、理解してから運転すること。 2. 取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、販売店により新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管すること。 3. ラベルが損傷やはがれて読めなくなった場合は、販売店より新しいラベルを購入して貼り替えること。

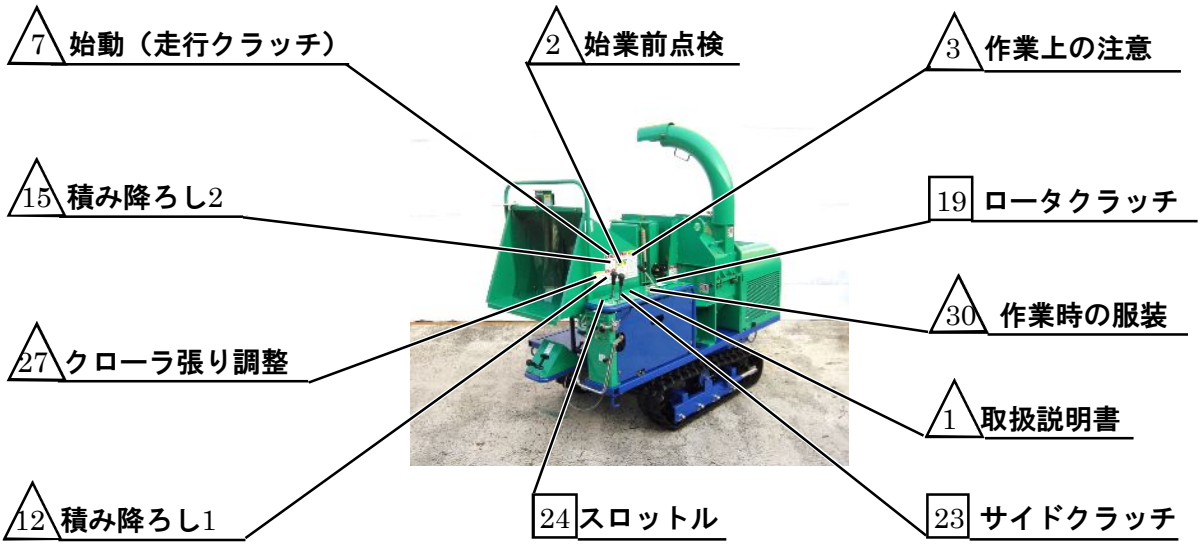
1. この取扱説明書をよく読んで機械をよく知るようにして下さい。不馴れな機械を運転すると事故につながります。
2. 取扱説明書でいう機械の「右」及び「左」、「前」及び「後」はオペレータが機械の作業位置にいることを想定して意味しています。
3. 機械を子供に運転させないで下さい。また大人でも適切な訓練を受けずに運転させないで下さい。
4. 作業時にはヘルメット、安全靴、保護メガネ、防音保護具（耳栓）、保護手袋、長袖、長ズボンを着用して下さい。飲酒時や過労ぎみの時、及び病気で体調不良の時は、運転しないで下さい。
5. 運転は日中または十分な照明のあるときに限定して下さい。
6. エンジンを始動させるときには必ず、オペレータはすべての駆動装置を切ってから行って下さい。
   (1) エンジンを始動させる前にエンジンの取扱説明書をよく読んでエンジンについて精通しておいて下さい。
   (2) 誰も人を付けないで機械を放置して置くときは、次のことを必ず行って下さい。
   ① ロータクラッチレバーを「切」位置にします。
   ② 走行クラッチレバーで「下」位置にします。
   ③ 燃料コックを「閉」位置にし、エンジンキーを外します。
7. 粉砕作業は、シフトレバーを「N（ニュートラル)」位置にしてから行ってください。
8. 材料の形状によっては、投入する際、材料が暴れたり、投入口から粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので、投入口の正面に立たずに脇に立って作業を行って下さい。
9. 作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないよう十分注意して下さい。
10. 粉砕された材料は、排出ダクトより勢いよく排出されますので事故につながる可能性があります。作業にかかる前に、排出ダクトの排出方向を定め、ダクト固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始して下さい。
11. ほこりや塵がたちやすい場所での作業時は、作業前に、必ず作業場付近に散水してから作業して下さい。
12. 屋内で作業を行う場合は、ドアや窓を開け十分な換気を行って下さい。排気の一酸化炭素は猛毒です。
13. 作業中は、各部点検カバー・ホッパーは絶対に開けないで下さい。作業中の点検はエンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行って下さい。

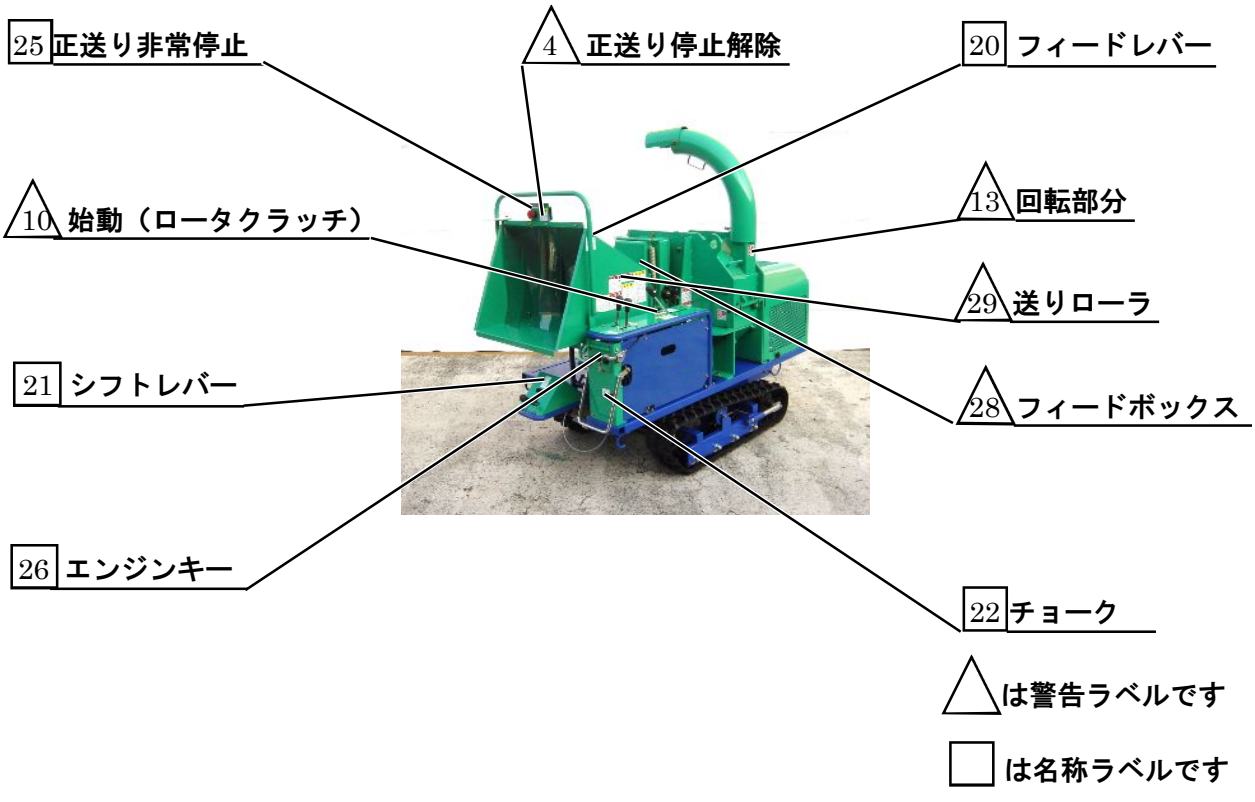
14. 作業終了後の点検の際は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認し、エンジンキーを外してから行って下さい。
15. 作業終了後は、本機各部の清掃・点検及び給油を十分行ってください。特に、エンジンのエアクリーナエレメントは、エンジントラブル防止のため、こまめに清掃して下さい。
16. 部品が変形した状態、または部品が欠品になっている状態で、機械を絶対に運転しないで下さい。
17. 作業時および走行時は、前が見にくいため回りの安全を十分確認の上、作業を行って下さい。
18. 発進するときは、前後左右に危険がないか確認してゆっくり発進して下さい。停車するときは、安全な場所を選んで停車して下さい。
19. 機械を後進させるときは、後ろに何があるか先ず確認して下さい。
20. 坂道での設置は絶対しないで下さい。設置は平坦地にして下さい。
21. 傾斜地での作業はしないで下さい。
22. ユニック等で本機をトラックなどへ積み降ろしを行う場合は、トラックを平坦なところに停車し、駐車ブレーキと車止めをして、バランスに気を付け転落しないように十分注意して下さい。
23. 機械の点検整備等をするときはエンジン停止し、回転部分が完全に止まって、エンジンキーを外してから行って下さい。
24. エンジンの点検、整備等をするときは、エンジンキーを外してエンジンが十分冷めてから行って下さい。
25. 燃料は可燃性が高いので注意して扱って下さい。
    (1) 新しい清浄な燃料のみ使用して下さい。
    (2) 給油は決められた燃料容器を使用し、この燃料容器の口はタンク注入口に挿入できるものでなければなりません。挿入できないものであれば、専用の給油ポンプを使用して下さい。
    (3) エンジン回転中、または熱い間はキャップを外してエンジンに燃料を給油したり、屋内でタンクに燃料を入れたりしないで下さい。燃料がこぼれた場合はきれいに拭き取って下さい。
    (4) 燃料を洗浄剤として使わないで下さい。
    (5) 燃料を扱っているときはタバコを吸わないで下さい。
    (6) 裸照明は絶対にしないで下さい。
    (7) 裸火のある場所または火花を発生する装置の近くに燃料容器を保管しないで下さい。
26. 屋内に機械を保管するときはエンジンが冷めてから保管して下さい。必ずエンジンキーを外しておいて下さい。
27. 平坦で危険のないところで機械の操作の練習を行い、操作に習熟して下さい。
    (1) エンジンの始動、停止とスロットルレバーの調整
    (2) ロータクラッチの入切のしかた
    (3) 送りローラ操作のしかた
    (4) 走行ミッションの変速のしかた、走行クラッチの入切のしかたと前後走行およびサイドクラッチの操作のしかた
28. 改造は一切してはいけません。
29. 作業は２人以上で行い、単独では行わないようにしてください。

ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある個所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持して下さい。

ラベルの位置

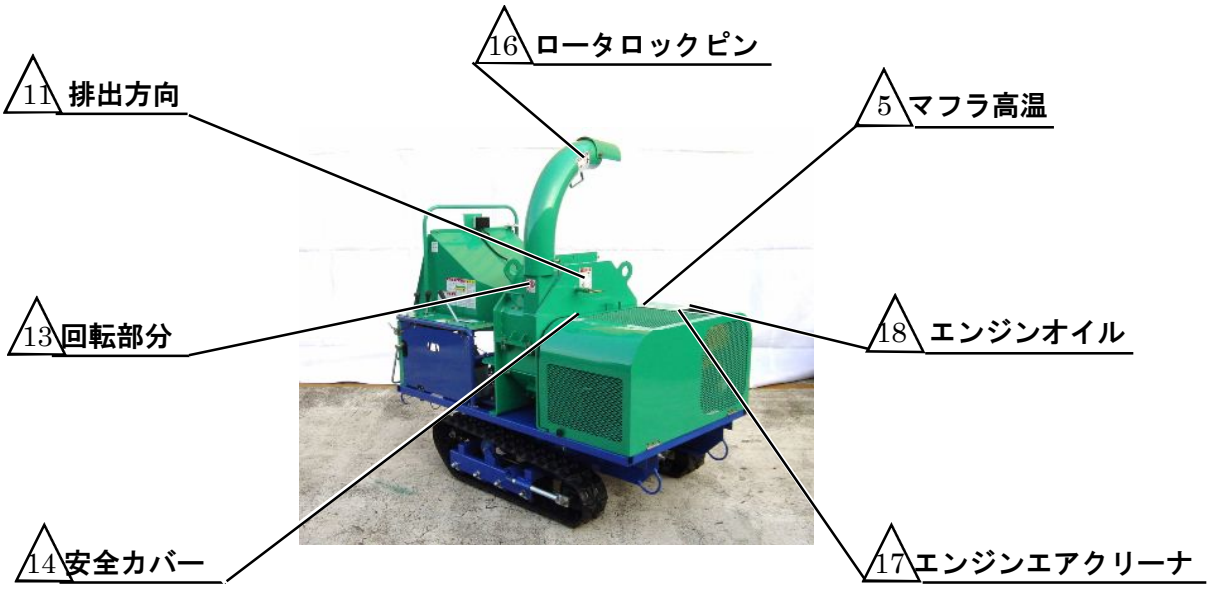


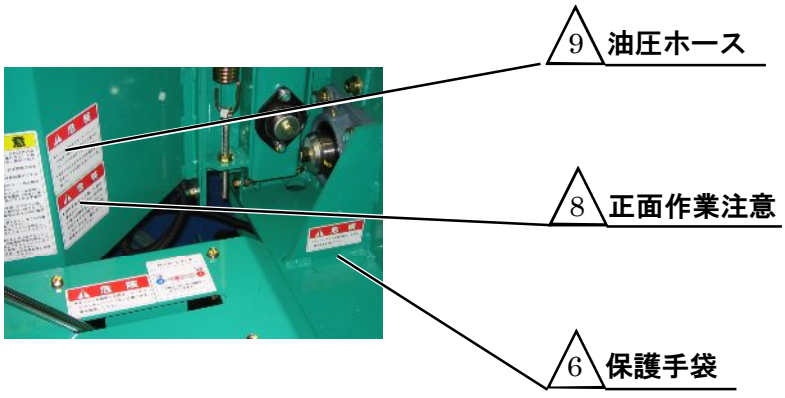


△は警告ラベルです

□は名称ラベルです

ラベルの位置





△は警告ラベルです

□は名称ラベルです

1 取扱説明書

注 意

1. 本機を運転する者は、本機の取扱説明書をよく読み、理解してから運転すること。
2. 取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合、販売店より新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管すること。
3. ラベルが損傷やはがれて読めなくなった場合、販売店より新しいラベルを購入して貼り替えること。

2 始業点検

注 意

■エンジンを始業する前に下記の点検を行って下さい。
1．エンジンオイル量
2．エンジンエアクリーナーエレメントの汚れ
3．作動油タンクのオイル量
4．燃料タンクの油量
5．各部の油もれ
6．車体各部のボルト・ナットなどのゆるみ
　1）ローターハウジングカバー固定ナットのゆるみ
　2）チッパーナイフ固定ボルトのゆるみ
　3）シュレッダーナイフ軸のゆるみ
　4）排出ダクト固定ナットのゆるみ
7．ベルトの張り具合、磨耗やほつれ

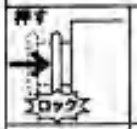
3 作業上の注意

注 意

1．本機は樹木材用です。それ以外の金属類（釘・針金・金属片など）や異物は粉砕前に取り除き、絶対に投入しないで下さい。
2．作業を行う前には、必ず周囲の安全を確かめて下さい。
3．斜面での作業・駐停車は避けて下さい。
4．作業中は各部点検カバー・窓は絶対に開けないで下さい。
5．作業時には、ヘルメット・安全靴・保護メガネ・防音保護具（耳栓）・保護手袋・長袖・長ズボンを必ず着用して下さい。
※軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、引き込まれる可能性のあるものは着用しないで下さい。
6．本機に異常を感じたら、すぐに作業を中止し点検して下さい。
7．作業中の点検はエンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行って下さい。
8．本機から離れるときは必ずエンジンを停止し、回転部が完全に停止したことを確認してからエンジンのキーを抜き取り保管して下さい。
9．作業終了後は、必ず本機各部の点検、清掃を十分行って下さい。

4 正送り停止解除

注 意



■正送りは停止して、ボタンはロックされます。

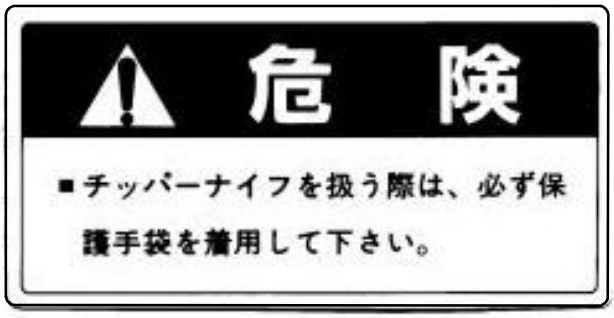


■ボタンは飛び出して元に戻り、正送り停止は解除されます。

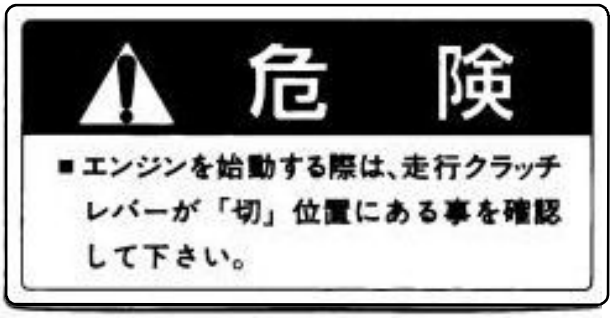
5 マフラ高温



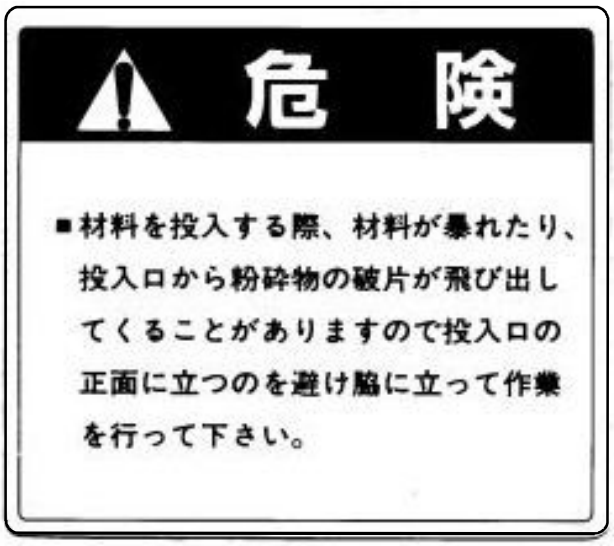
6 保護手袋



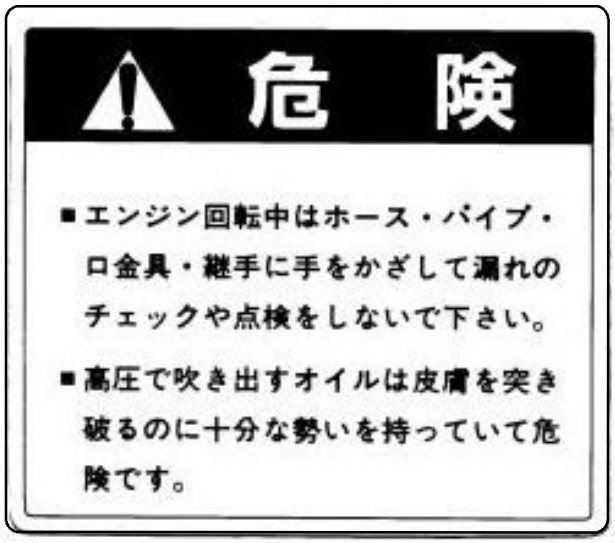
7 始動注意（走行クラッチ）



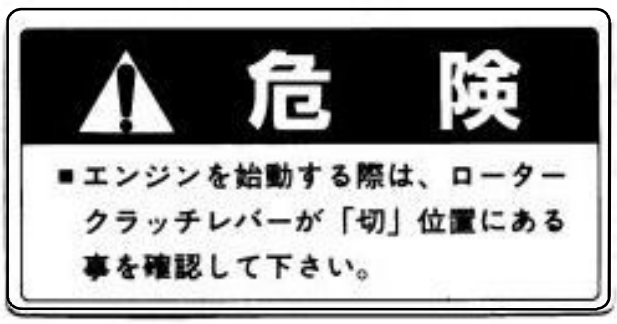
8 正面作業注意



9 油圧ホース



10 始動注意（ロータクラッチ）



11 排出方向



13 回転部分



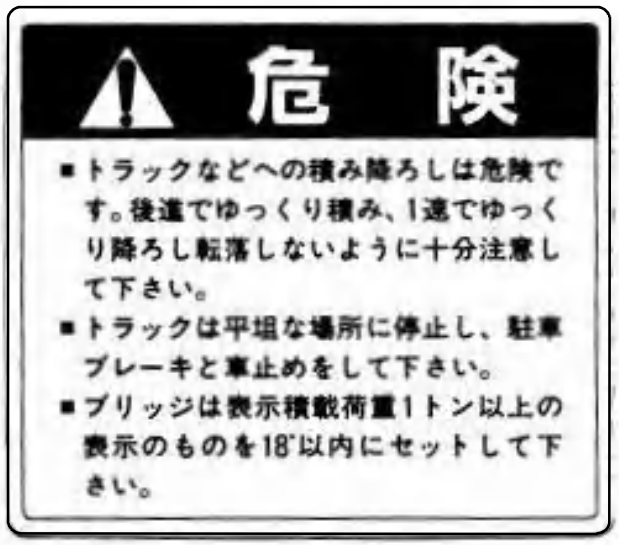
14 安全カバー



12 積み降ろし1



15 積み降ろし2



16 積み降ろし2



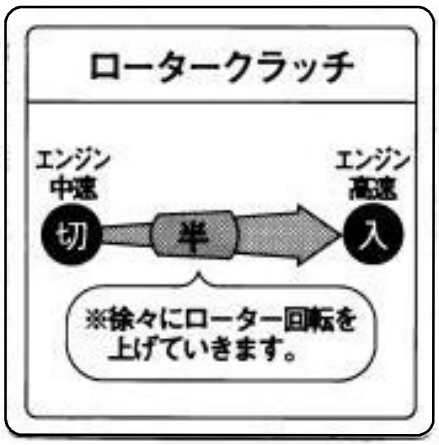
17 エンジンエアクリーナ



18 エンジンオイル



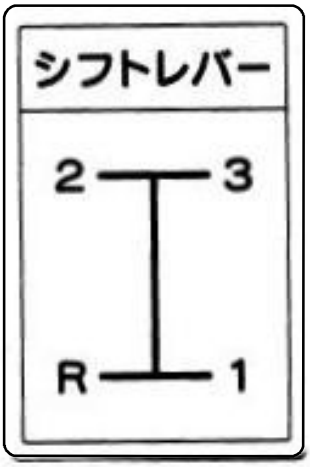
19 ロータクラッチ



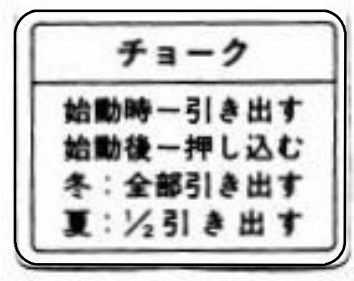
20 フィードレバー



21 シフトレバー



22 チョーク



23 サイドクラッチ



24 スロットル



25 正送り非常停止



26 エンジンキー



27 クローラー張り



28 フィードボックス



29 送りローラ



30 作業時の服装



22 チョーク

26 エンジンキー

23 サイドクラッチ

24 スロットル

25 正送り非常停止

本機の使用目的

本機は、平坦地での使用を前提とし、樹木材を粉砕、減容化する事を目的とした機械です。本機を使用目的以外に使用しないで下さい。

主　要　諸　元

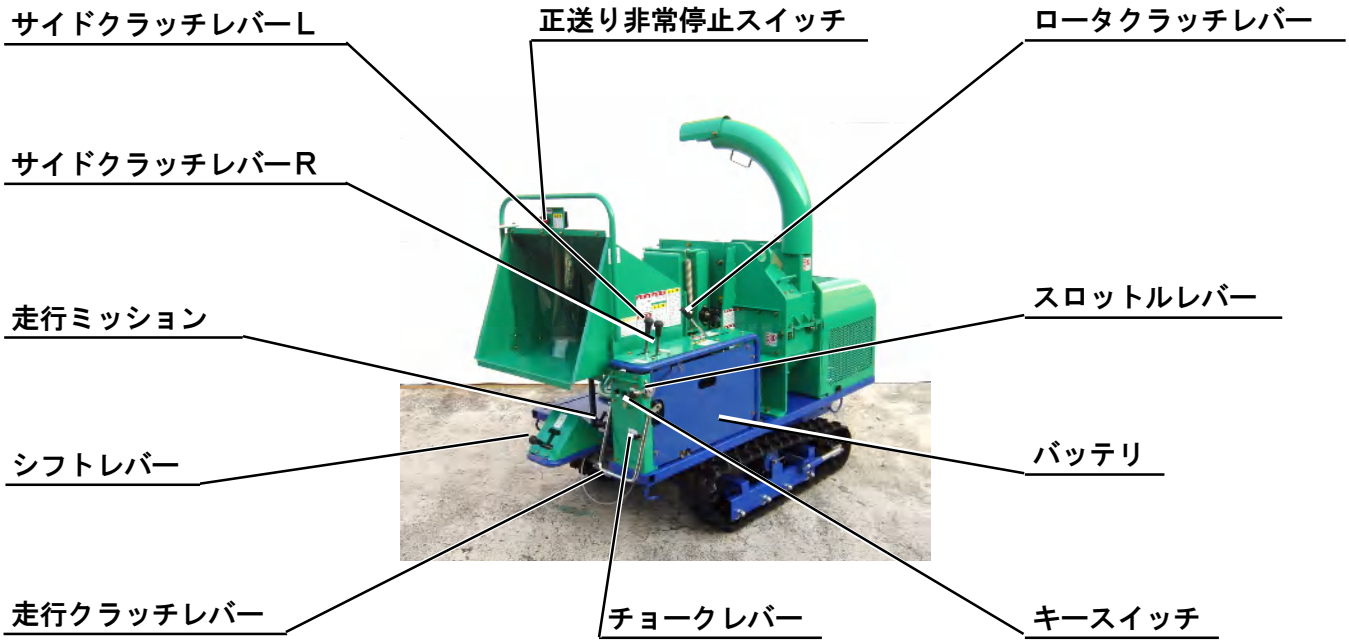
名　　称	ウッドチッパー
型　　式	ＫＣＭ１４１
全長×全幅×全高	１８３５×１０２０×１７０５mm
重　　量	６５０Ｋｇ
駆　動　方　式	ベルトクラッチ・Vベルト
処　理　径	定格　１００mm
破　砕　刃	チッパーナイフ２枚・受刃
ホッパ口径	６００×５００mm
送り装置	２０m／ｍｉｎ
排出方式	空気搬送式
ダクト高さ	１７０５mm
回転角度	３６０度(全方向)
排出角度	可変式
走行方式	ゴムクローラ（巾１６０×接地長７９０×中心距離８０３）
走行速度	F1　０．９　F2　１．８　Ｆ３　２．７　R　０．８ｋm／ｈ
エンジン	ロビンＥＨ４１ＤＳ
最大出力	１３．５（９．９）／３６００　ｐｓ（ｋｗ）／ｒ.ｐ.m
点火プラグ	ＮＧＫ　ＢＰ　６ＥＳ
燃　　料	自動車用無鉛ガソリン（燃料タンク７ﾘｯﾄﾙ）

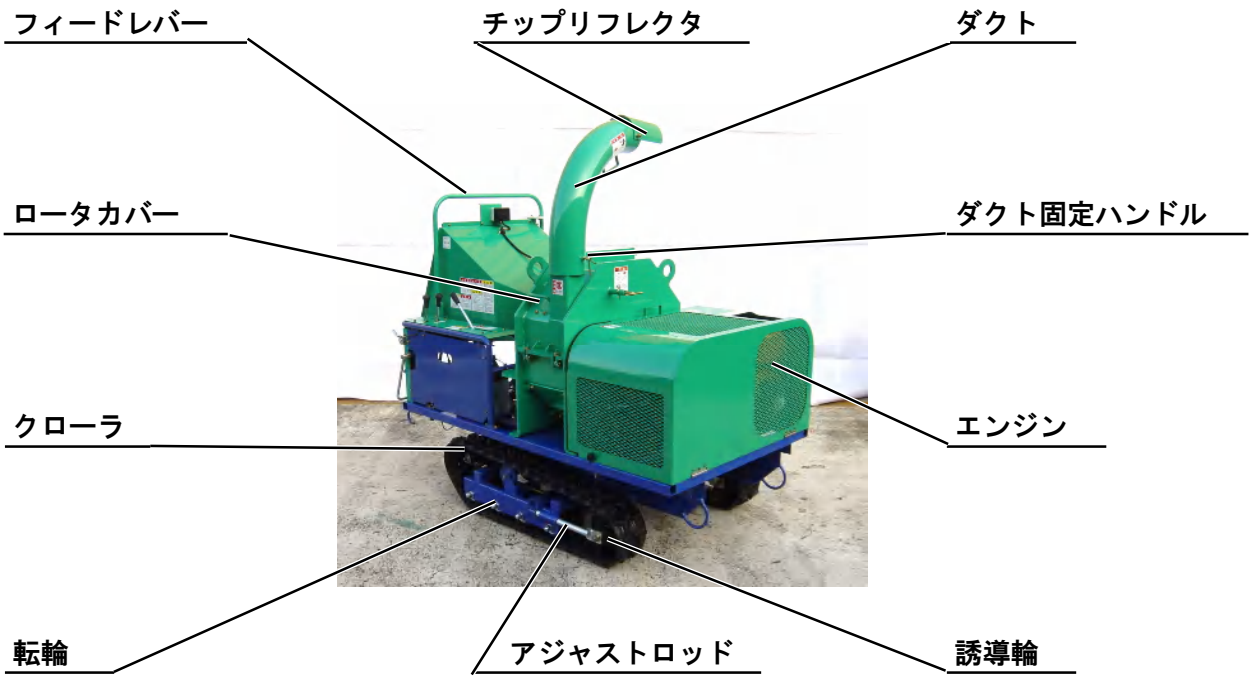
＊この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

尚エンジン、バッテリにつきましては、各取扱説明書をご覧ください。

各部の名称

機械を見ながら名称を確認下さい。





運転を始める前に

機械を調子よく保ち効率的に作業ができるように毎日の作業前には必ず点検・整備を行いましょう。

注意

ケガや事故防止・燃料への引火防止のために、次のことを厳守して下さい。

1. 点検をする時はロータクラッチレバーを**「切」**位置、シフトレバーを**ニュートラル**位置にし、駐車ブレーキをかけエンジンキーを外してから行って下さい。
2. 本機は**樹木材用**です。それ以外の金属類（釘・針金・金属片など）や異物は粉砕前に取り除き、絶対に投入しないで下さい。
3. 作業を行う前には、必ず**周囲の安全**を確かめて下さい。（公園など、公共施設での作業の場合は、特に周囲の安全確認を徹底して下さい。
4. **斜面**での作業・駐停車は避けて下さい。
5. 作業中は**各部点検カバー・窓**は絶対に開けないで下さい。
6. 作業時には、**ヘルメット・安全靴・保護メガネ・防音保護具（耳栓）・保護手袋・長袖・長ズボン**を必ず着用して下さい。
7. 軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、**引き込まれる可能性**のあるものは着用しないで下さい。
8. エンジンを始動する際は、ロータクラッチレバーが**「切」**位置にある事を確認して下さい。
9. **異常**を感じたら、すぐに作業を中止し点検して下さい。
10. 作業中の点検はエンジンを停止し、回転部が完全に**止まってから**行って下さい。
11. 本機から離れるときは必ずエンジンを**停止**し、回転部が完全に停止したことを確認してからエンジンキーを**抜き取って**下さい。
12. 作業終了後は、必ず本機各部の**点検・清掃**を十分行って下さい。
13. エンジン**回転中**やエンジンが**熱い間**は注油・給油及び点検整備は絶対してはいけません。
14. 燃料の運搬や補給などの取扱い時は、**くわえ煙草・裸照明**は絶対してはいけません。
15. 操作系の点検は一部試走確認点検が必要であるため、平坦で広く障害物のない**安全な場所**で行って下さい。その際整備が必要な場合は1.項目内容を厳守して下さい。
16. 取外したカバー類は、**元通りに**装着して下さい。

始 業 点 検

NO	ここを		こんな点検をして	こう処置する
1	エンジン	燃料タンク	必要な量の燃料があるか 燃料もれはないか	補給する。整備する。 ・レギュラガソリン（満タン：約7L）
		クランクケース	検油ゲージの上下刻線の間に油量があるか。汚れていないか	補給する。汚れがひどければ交換する。 ・エンジンオイル（1.2L） SC級以上、エンジン取扱説明書参照
		エアクリーナエレメント	ゴミの付着や汚れがないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する。 エンジン取扱説明書参照

始 業 点 検

NO.	ここを		こんな点検をして	こう処置する
2	操作系	ﾛｰﾀｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ	入切が確実に行えるか	適正に調整する　P36参照
		走行ｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ（駐車ﾌﾞﾚｰｷ）	遊びしろは適正か ブレーキの効きは十分か	適正に調整する　P33参照
		ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ	左右の旋回はスムーズに行えるか	適正に調整する　P36参照
3	チッパーナイフ		取付ボルト・ナットのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする 反転、又は交換する　P24参照
4	受刃		取付ボルトのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする 反転、又は交換する　P26参照
5	走行ミッション		オイルは規定量入っているか	補給する ・ギヤオイル#90(1.4L)　P31参照
6	クローラ		張りは適正か。 スチールコード・ゴムの破損、劣化はないか	張りを正しく調整する 交換する　P41参照
7	ロータベルト		張りは適正か。磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する　P36参照
8	パワーパック（ﾀﾝｸ付油圧ﾎﾟﾝﾌﾟ）		オイル漏れは発生していないか 取付ボルトのゆるみはないか オイルは規定量入っているか	オイル漏れは増締めして様子を見る 増締めする 補給する　P32参照 油圧作動油ISOVG46相当粘度(3ﾘｯﾄﾙ)
9	ﾊﾟﾜｰﾊﾟｯｸﾍﾞﾙﾄ		張りは適正か。磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する　P40参照
9	油圧ホース・油圧系各部		オイル漏れは発生していないか、切れ、磨耗、ねじれ、接合部のゆるみはないか	新品と交換する。 接続部のゆるみ、オイル漏れは増締めして様子を見る　P33参照
10	重要なボルト・ナット ・エンジン取付ボルト ・ロータハウジング取付ボルト ・ロータハウジングカバー固定ナット ・排出ダクト固定ボルト		取付ボルト・ナットのゆるみはないか	増締めチェックする　P50参照
11	バッテリ		電解液量は不足していないか バッテリターミナル部は汚れていないか	UPPERラインまで精製水を補給する バッテリターミナル部を清掃する P42参照
12	各ワイヤ・レバー・支点及び磨耗部・しゅう動部		潤滑油が不足していないか 適正に作動が行えるか	適量注油する 適正に調整する。 ギヤオイル#90、WD-40など

※処置をしても直らない場合は、販売店へご相談下さい。

上手に運転するには（ １ ） ～安全を確認して慎重に運転しましょう～

危　　険

■ エンジンを始業する前に下記の点検を行って下さい。

1. エンジンオイル量
2. エンジンエアクリーナーエレメントの汚れ
3. 作動油タンクのオイル量
4. 燃料タンクの油量
5. 各部の油もれ
6. 車体各部のボルト・ナットなどのゆるみ
   1)ローターハウジングカバー固定ナットのゆるみ
   2)チッパーナイフ固定ボルトのゆるみ
   3)シュレッダーナイフ軸のゆるみ

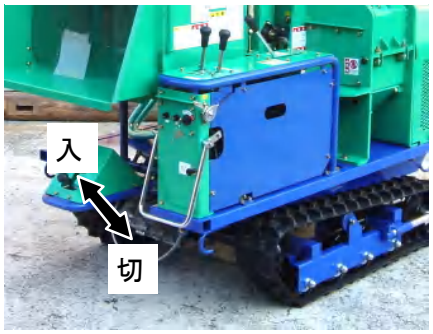
危　　険

■ エンジンを始動する際は、ロータークラッチレバーが「切」位置にある事を確認して下さい。

エンジンの始動のしかた

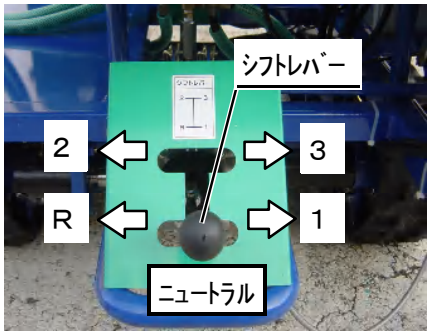
1．走行クラッチレバーを「切」位置にして下さい。

走行クラッチレバー



さい

シフトレバー



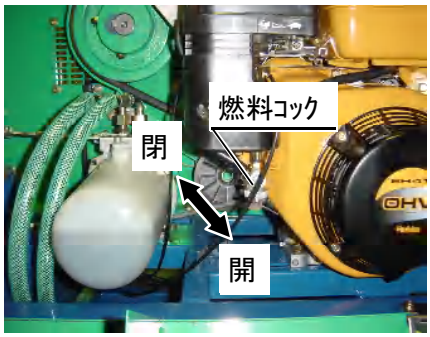
3．ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

ロータクラッチレバー

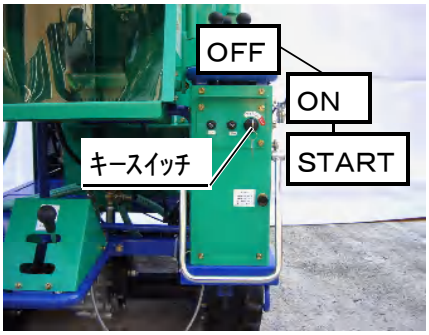


4．燃料コックを「開」位置にして、エンジンキーを差し込んで下さい。

燃料コック

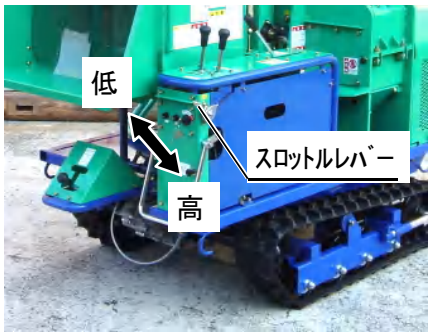


エンジンキー



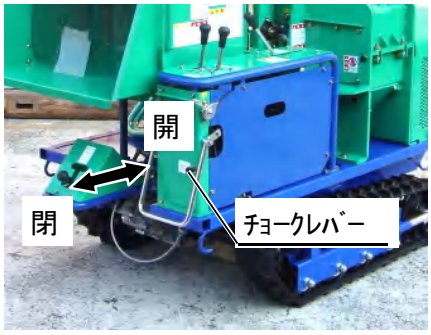
4．スロットルレバーを「低」位置にして下さい。

スロット ルレバー



5．チョークレバーを「閉」位置に（引き出す）して下さい

チョ ークレバー



6．エンジンキーを右に回しＯＮ位置にして下さい。更に右へ回しＳＴＡＲＴ位置に入れエンジンが始動したらすぐ離して下さい（キーはＯＮ位置に止まります）。キーをＳＴＡＲＴ位置に５秒以上入れないで下さい。
始動しない場合は、１０秒程間をあけて再度始動して下さい。

7．エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に「開」位置に（押し込む）して下さい。

8．エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分程低速で暖気運転して下さい。

注 意 1

チョークノブの開度は、寒い時やエンジンが冷えている時は「閉」位置にして下さい。また、暖かい時や運転停止直後、再始動する場合は「開」位置もしくは「半開」位置にして下さい。

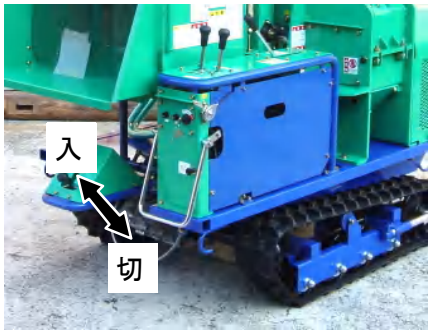
注 意 2

ＳＴＡＲＴ始動を３回以上行っても始動しないとき、続けて何回もＳＴＡＲＴ始動していると燃料を吸いすぎ始動困難になりますので、チョークノブを「開」にし、スロットルレバーを「中」位置から「高」位置にしてからＳＴＡＲＴ始動して下さい。

発進のしかた

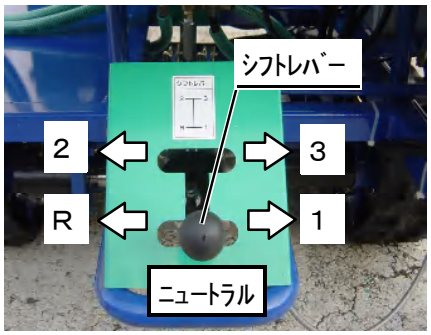
1．走行クラッチレバーが「切」位置にあることを確認して下さい。

走行クラッチレバー



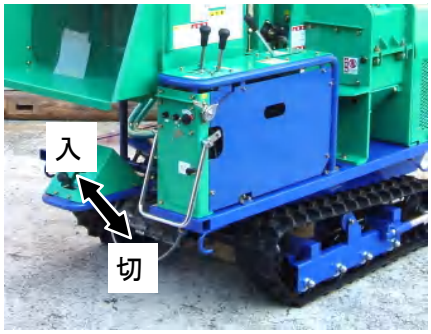
2．シフトレバーを「1」、「2」、「3」、「R」のいずれかの位置にして下さい。

シフトレバー



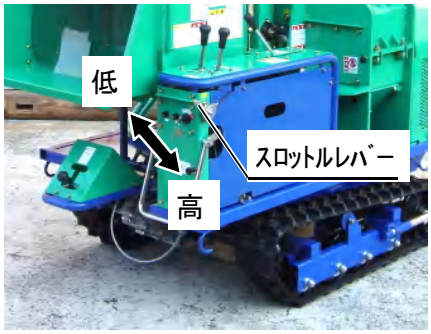
3．走行クラッチレバーをゆっくり「入」の位置にして発進します。

走行クラッチレバー



4．スロットルレバーの位置を変えて速度を調整します。

スロットルレバー



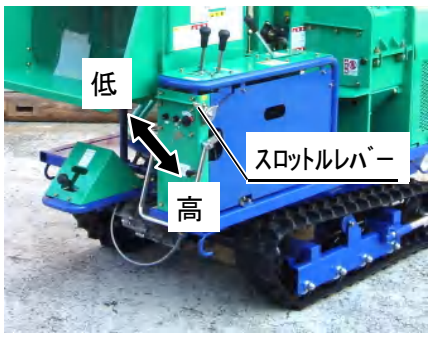
注 意

本機は走行の駆動に油圧モータを採用しているためエンジンの回転数が不十分だと本来の走行性能が得られない場合がありますのでご注意下さい。

停止のしかた

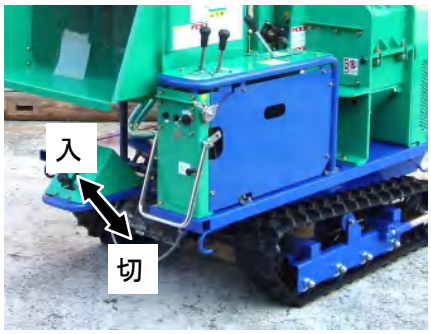
1．スロットルレバーを「低」位置にして減速します。

スロット ルレ バー



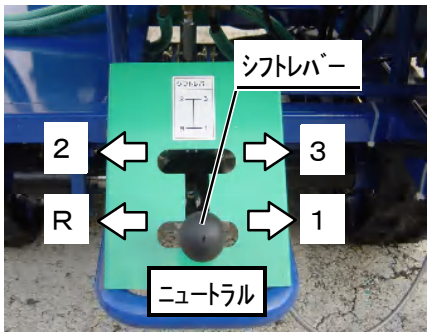
2．走行クラッチレバーを「切」位置にし、平坦地に停車します（同時に駐車ブレーキが掛かります）。

走行クラッ チレ バー



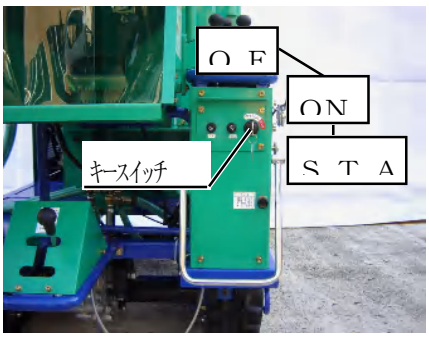
3．シフトレバーを「ニュートラル」位置にします。

シフト レ バー



4．エンジンキーを[ＯＦＦ]の位置にし、エンジンを停止します。

エンジンキー



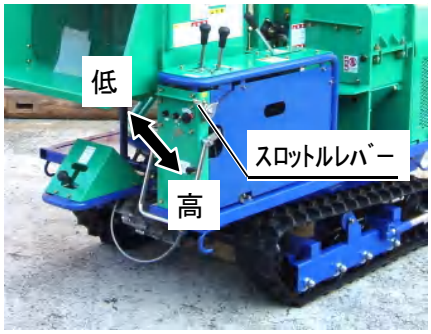
注 意

機械から離れる時は、エンジンキーを外して下さい。

変速のしかた

1．スロットルレバーを「低」位置にします。

スロット ルレバー



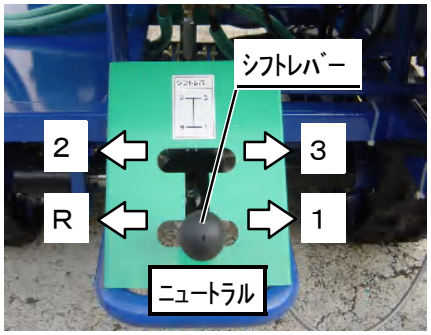
2．走行クラッチレバーを「切」位置にして停車します。

走行クラッチレバー



3．シフトレバーを作業に適した位置に入れます。

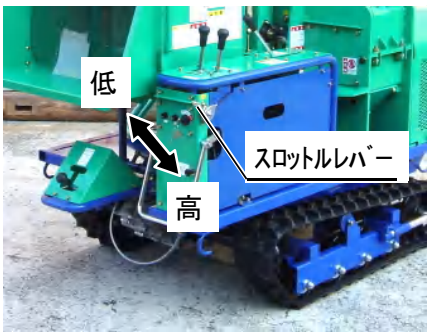
シフト レバー



4．走行クラッチレバーをゆっくり「入」の位置にして発進します。

5．スロットルレバーの位置を前後して速度を調整します。

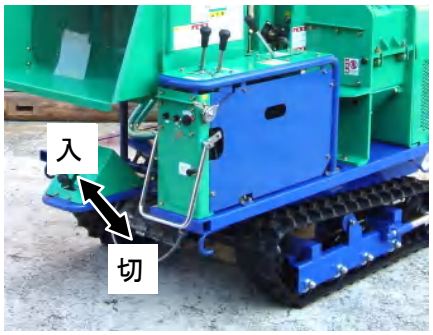
スロット ルレバー



注 意 1

走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しており、走行クラッチレバーを「切」位置にすると自動的に駐車ブレーキがかかり、「入」位置にすると解除します。

走行クラッチレバー



注 意 2

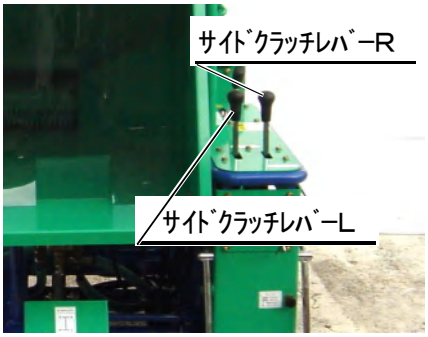
走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しているために、チェンジが入りにくい場合があります。

注 意 3

変速は必ず走行クラッチレバーを「切」にしてから操作して下さい。

旋回のしかた

サイド クラッチレバー



1．左旋回する場合は、サイドクラッチレバーＬを手前に引いて下さい。左側のクローラが停止し、機体は左旋回します。

2．右旋回する場合は、サイドクラッチレバーＲを手前に引いて下さい。右側のクローラが停止し、機体は右旋回します。

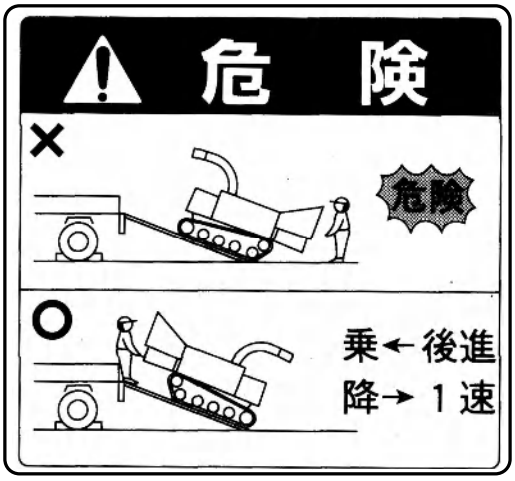
注 意 1

左右のレバーを同時に引くと走行は停止します。

注 意 2

下り傾斜の場合は、逆操作になる場合がありますのでご注意下さい。

トラックへの積み降ろしのしかた



⚠ 危 険

■トラックなどへの積み降ろしは危険です。後進でゆっくり積み、１速でゆっくり降ろし転落しないように十分注意して下さい。

■トラックは平坦な場所に停止し、駐車ブレーキと車止めをして下さい。

■ブリッジは表示積載荷重１トン以上の表示のものを18°以内にセットして下さい。

1．積み降ろしのしかた

(1) 周囲に危険物のない、平坦な場所を選び、本機からは降りて操作して下さい。

(2) トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。

(3) 基準に合ったブリッジを使用して下さい。
左右のクローラがブリッジの中央に位置するようにセットしてから積み降ろしを行って下さい。

2．ブリッジ基準

(1) ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用して下さい。
長さは、トラック荷台までの高さの３．５倍

(2) 以上あるものを使用して下さい。
(3) 幅は、本機のクローラ幅にあったものを使用して下さい。
(4) 強度は、本機重量および作業者の体重の総和に十分耐え得るものを使用して下さい。
(5) 表面は、スリップしないように表面処理が施されたものを使用して下さい。

警 告 1

運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。

警 告 2

トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。思わぬ事故やケガをまねく恐れがあります。

警 告 3

ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。

警 告 4

トラックへの積み降ろしの際、ブリッジ上での方向転換、変速はしないで下さい。

警 告 5

本機がブリッジとトラックの荷台との境を越えるときには、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。転倒・転落による事故やケガをまねく恐れがあります。

警 告 6

トラックに積んで移動するときは、走行クラッチレバーは「切」位置にし、十分に強度のあるロープで確実に固定して荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けて下さい。機械の転落や、本機の運転席への突っ込みによる重大な事故やケガをまねく恐れがあります。

警 告 7

本機のクローラがブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。

警 告 8

原則として、積み込む場合は後進で「R」位置、降ろす場合は前進「1」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。さらにスロットルレバーは「中」位置にし、ゆっくりと行って下さい。

注 意

本機は走行の駆動に油圧モータを採用しているためエンジンの回転数が不十分だと本来の走行性能が得られない場合がありますのでご注意下さい。

ロータクラッチの入・切のしかた

ロータクラッチレバー



1．ロータクラッチが、確実に切れている事を確認してからエンジンを始動させ、スロットルレバーを「中」位置にして、エンジン回転を上げます。
2．ロータクラッチレバーを「切」と「入」の中間位置（半クラッチ）にゆっくり倒し、エンジン音、ブレ等の様子を見ながら、エンジンが大きくブレない位置で保持します。
3．ロータ回転が上昇し定速になるまでロータクラッチレバーを保持します。
4．定速になったら、ロータクラッチレバーを「入」位置に向けてゆっくり倒します。
5．スロットルレバーをゆっくり「高」の方へ倒します。

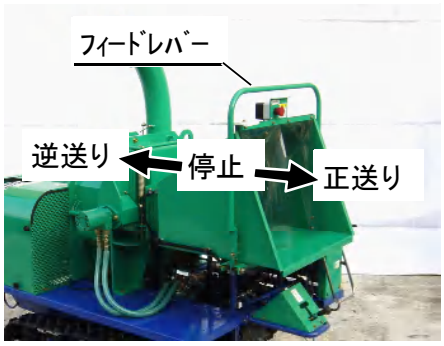
注 意

急に接続するとエンストを起こしたり、ベルトの破損につながりますので、クラッチ操作は必ずゆっくり行って下さい。

6．ロータを停止させる場合は、ロータクラッチレバーを「切」位置にするとロータは停止します。その際にスロットルレバーを「低」位置にするとエンジンブレーキがかかり、ロータの回転をはやく低下させることが出来ます。エンジンブレーキでロータの回転を十分落としてからロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

送りローラ操作のしかた

フィードレバー



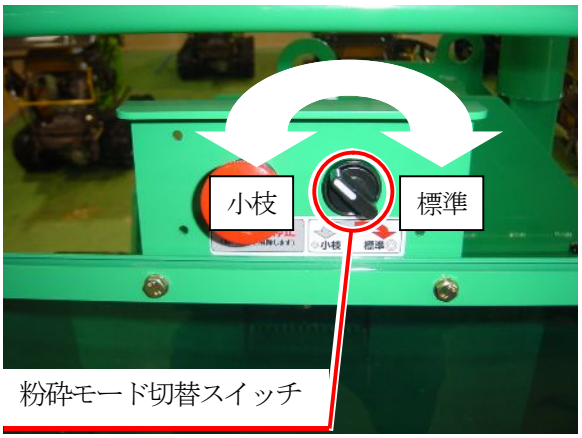
1．フィードレバーを手前に引くと送りローラは正転し材料をロータ内部へ搬送します。
2．フィードレバーを中立位置にすると送りローラは停止します。
3．フィードレバーを前方へ押すと送りローラは逆転し材料を排出します。

注 意

この機械に投入出来る材料は最大で直径１５０mmまでです。それ以上大きい材料がある場合は、投入前に材料を薪割機等で小さく(細かく)してから作業を行って下さい。

粉砕モード切替のしかた

非常停止ボタン右側にある粉砕モード切替スイッチを操作することにより樹木の太さに合った粉砕モードに切替ます。
粉砕モードの選定は以下を参考にして下さい。



・スイッチ右方向：標準モード
　粉砕物直径が５~６ｃｍ程度以上の場合や硬い材質の場合には標準モードでスロットルレバーは高速で粉砕して下さい。
・スイッチ左方向：小枝モード
　粉砕物直径が５~６ｃｍ程度以下で特別硬くない材質の場合には小枝モードでスロットルレバーは中速で粉砕して下さい。

注　意　１
粉砕物直径が５~６ｃｍ以下の樹木でも多くを束ねて粉砕する場合には、標準モードで粉砕して下さい。

注　意　２
粉砕物直径が５~６ｃｍ以上の樹木は標準モードに切替てスロットルを高速(エンジン全開)で粉砕して下さい。

注　意　３
小枝モードで送りスイッチを「右」位置（正転）にしても送りローラが回転しなければ、スロットルを少しずつ上げていき回転し出した位置から少し開けて下さい。

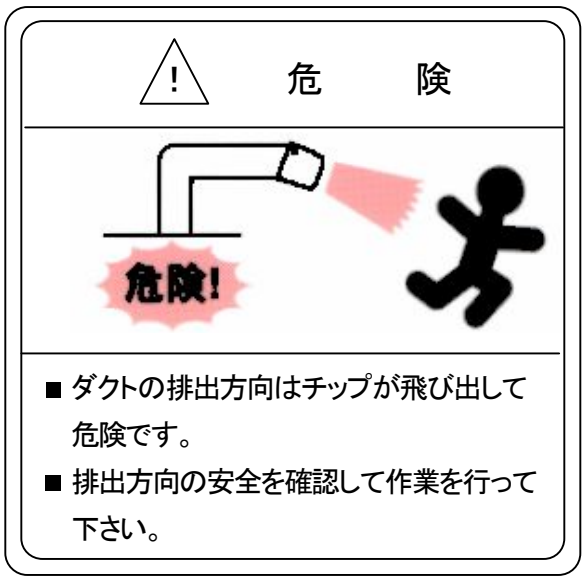
正送り非常停止のしかた

１．正送り非常停止スイッチを押すと、送りローラの正転のみ停止します。逆転は可能です。

２．正送り非常停止スイッチは、右へ回すと解除します。（スイッチが元の位置に飛び出します。）



排出ダクトの固定と排出方向





1．粉砕された材料は、排出ダクトより勢いよく排出されますので事故につながる可能性があります。
作業に入る前に、排出ダクトの排出方向を定め、作業中に排出ダクトが動かないようにダクト固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始して下さい。

注 意 1

粉砕した材料の排出方向は、エンジンがほこりを吸い込み、トラブルが発生することを避けるために、作業位置を工夫して、出来るだけエンジン側に向けないようにして下さい。

注 意 2

前が見にくいため、作業時および走行時は、回りの安全を十分確認の上、作業を行って下さい。

2．チップリフリレクタの角度を変えることにより、チップの排出角度を変えることができます。



上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

注　意

１．点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置にし、シフトレバーを「ニュートラル」位置にして、エンジンを停止しエンジンキーを外してから行って下さい。
２．点検は、回転部が完全に止まってから行って下さい。
３．チッパーナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用し、けがのないよう十分注意を払って下さい。
４．取外したカバー類は元どおりに装着して下さい

⚠ 危　険

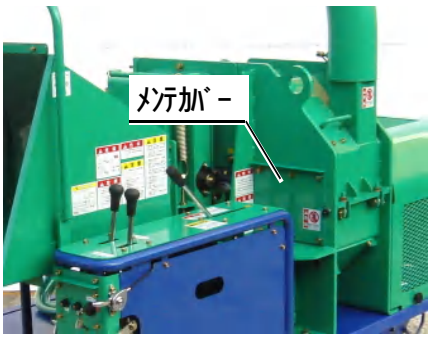
■ チッパーナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用して下さい。

チッパーナイフの反転・交換

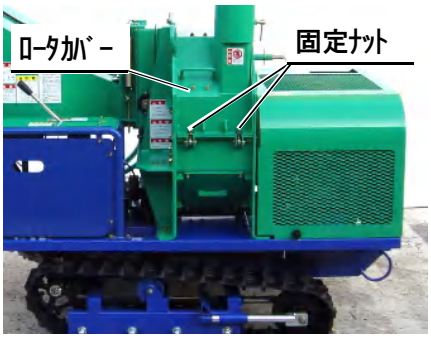
チッパーナイフが切れなくなると、エンジンに負荷がかかり、チップが詰まりやすくなったり、騒音や振動が激しくなり、機械各部やベルトにも無理がかかり、寿命が著しく短くなりますので、定期的にチッパーナイフメンテカバーを開け、チッパーナイフに歯こぼれ，ひび等の異常がないか点検して下さい。

１．メンテカバーの固定ボルト（８本）を緩めメンテカバーを外し、ロータカバーの固定ナットを緩めロータカバーを開けて下さい。

メンテカバー

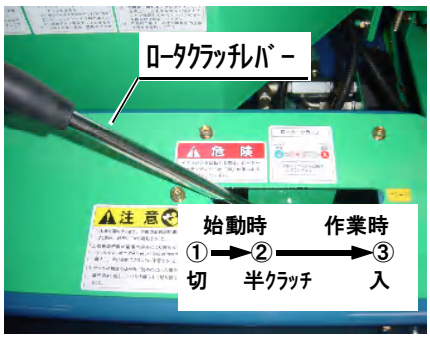


ロータカバー

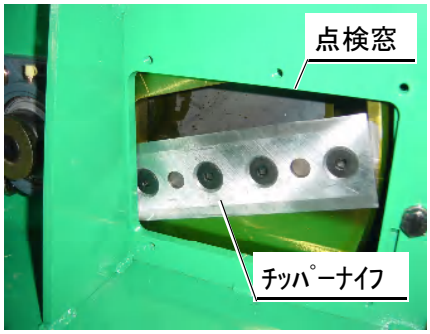


２．ロータクラッチレバーを「切」位置にして、ロータを回しチッパーナイフが点検窓にくる位置にして下さい。

ロータクラッチレバー

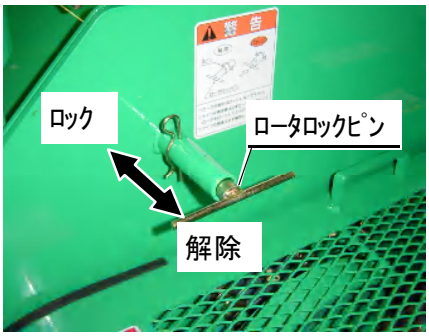


点検窓



3．ロータロックピンを「ロック」位置に差し、ロータが回らないようにして下さい。

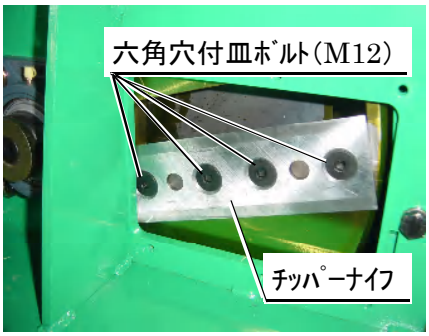
ロータロックピン



4．点検窓から六角レンチにて六角穴付皿ボルト（４本）を固定し、裏側にあるナットを緩め六角穴付皿ボルト（４本）を外して下さい。

5．チッパーナイフを反転、または交換後は、六角穴付皿ボルト（４本）を２枚ともにしっかりと締め付けて下さい。

チッパーナイフ



6．チッパーナイフの反転、または交換後は、受刃の調整の要領で、必ず受刃の調整を行って下さい。

7．チッパーナイフの反転、または交換後は、メンテカバーとロータカバーを元に戻し、取付ボルトと固定ナットをしっかりと締め付けて下さい。

重 要

チッパーナイフの取付け、受刃の調整が終わりましたら、必ずロータを手で回転させ、チッパーナイフと受刃が**当らないこと**を確認して下さい。

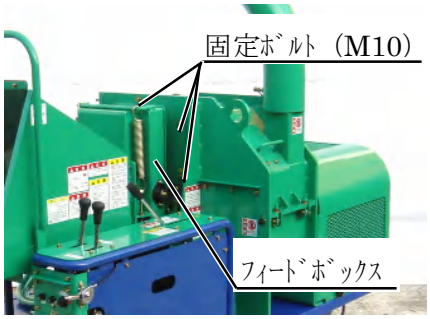
受刃の反転・交換

受刃の刃先が丸くなったら受刃を固定している M12 の固定ボルト（２本）を外して、反転または交換して下さい。

受刃を反転・交換する場合は、以下の要領で行って下さい。

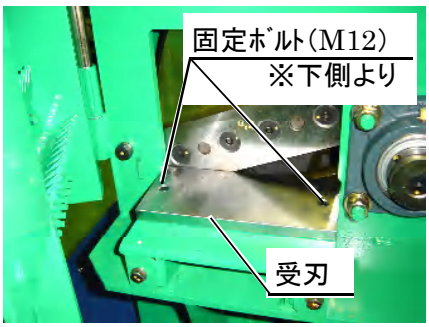
１．フィードボックスを固定している M10 の固定ボルト（３本）を外し、フィードボックスを開いて下さい。

フィードボックス



２．受刃を下側から固定している M12 の受刃固定ボルト（２本）を外して下さい。

受刃



３．受刃を反転、または交換して下さい。

４．受刃の調整の要領で受刃の調整を行い、M12 の受刃固定ボルト（２本）をしっかりと締め付けて下さい。

５．フィードボックスを閉め、M10 の固定ボルト（３本）をしっかりと締め付けて下さい。

重 要

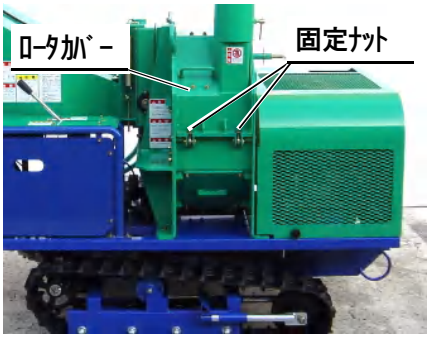
受刃の取付け、調整が終わりましたら、必ずロータを手で回転させ、チッパーナイフと受刃が**当らないこと**を確認して下さい。

受刃の調整（重要）

チッパーナイフや受刃の反転・交換を行った場合、必ず次の手順でチッパーナイフと受刃の**すき間を調整**して下さい。

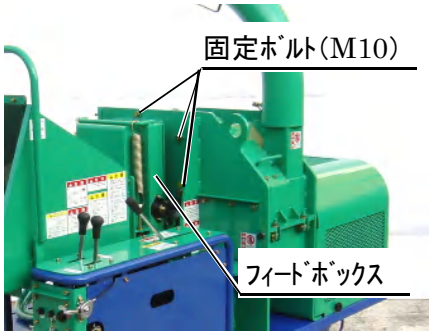
1．ロータカバーを閉じて固定ナットを締めます。（チッパーナイフと受刃のすき間に影響します）

ロータカバー



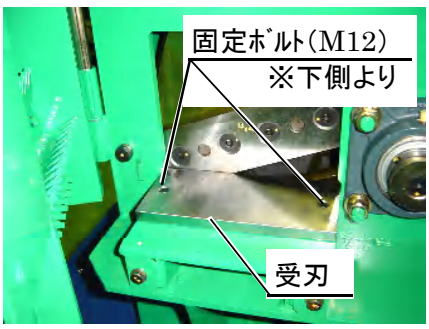
2．フィードボックスを固定している M10 の固定ボルト（３本）を外し、フィードボックスを開いて下さい。

フィードボックス



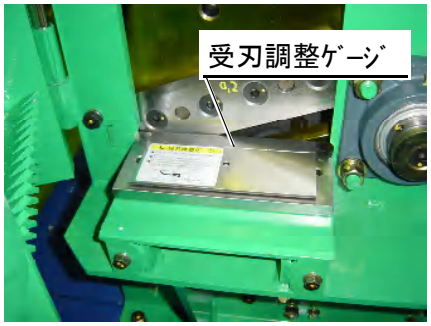
3．受刃を下側から止めている M12 の受刃固定ボルト（２本）を緩めて下さい。

受刃



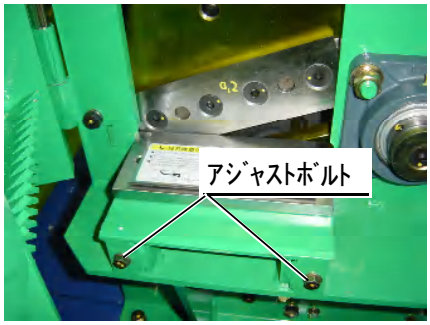
4．受刃調整ゲージの直角曲げ部分を受刃の先端にセットして下さい。

受刃調整ゲージ



5．２枚のチッパーナイフのうち、受刃とのすきまの狭い方を基準にしてアジャストボルトを動かし、ロータを回転させながらチッパーナイフと受刃のすき間が均等に、なおかつすき間と調整ゲージの板厚が等しくなるように調整して下さい。

受刃



6．調整が終わりましたら M12 の受刃固定ボルト（２本）をしっかりと締め付けて下さい。

7．アジャストボルトを右方向へ固くなるまで回します。（ネジのガタを取ります）

8．フィードボックスを閉じて、M10 の固定ボルト（３本）を締めつけて下さい。

注 意 1

チッパーナイフ及び受刃の取付け、調整が終わりましたら、必ずロータを手で回転させ、チッパーナイフと受刃が**当らないこと**を確認して下さい。

注 意 2

けがのないように、チッパーナイフの取扱いには十分注意を払って下さい。また、チッパーナイフ、ボルト、ナット類をロータハウジング内に落さないように注意して下さい。

粉砕作業時の注意点

注　意

1．つまりの原因を除去する場合、ナイフでけがをしないよう、十分に注意して作業に当たって下さい。
2．粉砕する材料に金属類（釘・針金・金属片など）や異物が混入していないことを確認のうえ、作業を行って下さい。
3．住宅地での作業では、周りへの騒音に注意を払って下さい。
4．作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないよう十分注意して下さい。
5．**危険防止のために**（P1～P2）、**運転を始める前に**（P11）を再読して下さい。

1．　つまり防止

つまりの発生を防止するために、下記の事項に十分注意の上、作業を行って下さい。

(1) ロータが完全に回り出してから粉砕作業を開始して下さい。

(2) 作業時は、半クラッチやクラッチを切った状態での使用を避け、必ずロータクラッチレバーを「入」位置にして接続した状態で使用して下さい。

(3) スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業して下さい。エンジンの回転数が低いと送りローラが正転しません。

(4) ロータベルトの張り点検を行い動力が十分伝わる状態で使用して下さい。（エンジン

及びロータが完全に止まっていることを確認の上、点検して下さい。）

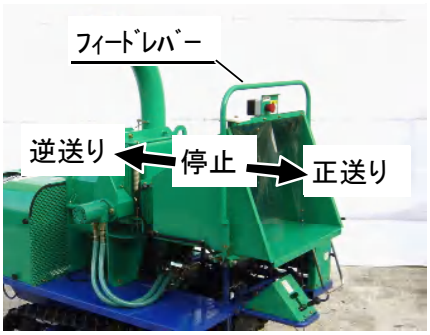
(5) 粉砕材料（特に枝、葉）が、雨や水に濡れている場合は、粉砕作業はできません。

2. つまりの除去

つまりが発生した場合は、下記の要領でつまりを除去して下さい。

(1) ホッパの材料を除去し、フィードレバーを「停止」位置にして下さい。

フィードレバー



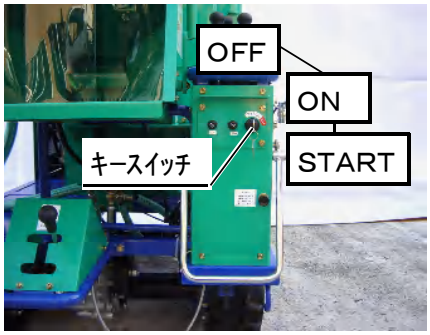
(2) ロータクラッチレバーを「切」位置にして、ロータを完全に停止状態にして下さい。

ロータクラッチレバー



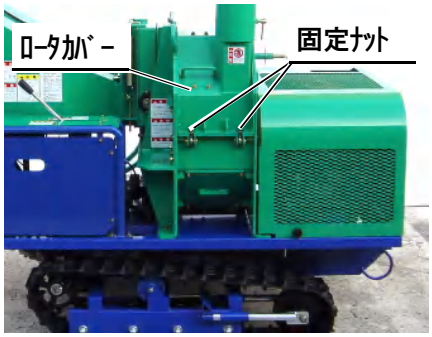
(3) エンジンキーを「ＯＦＦ」位置にしてエンジンを完全に停止状態にし、エンジンキーを外して下さい。

エンジンキー



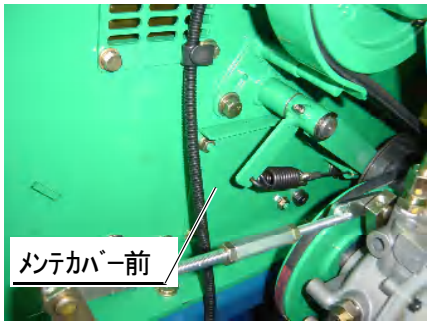
(4) ロータカバーを固定している固定ナット（２ヶ）を緩めてロータカバーを開け、つまりの原因を取り除いて下さい。

ロータカバー

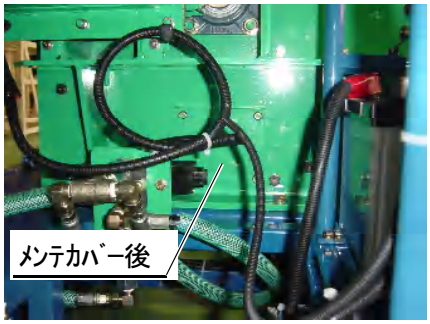


(5) ロータハウジングの前後の下部にあるそれぞれのメンテカバーを固定しているナット（各４ヶ）を外し、各メンテカバーを外して下さい。

メンテカバー前



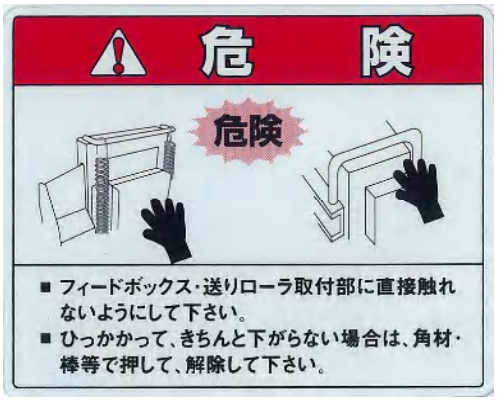
メンテカバー後



(6) 各メンテカバーより、つまりの原因を除去して下さい。

(7) つまりの原因を除去し終えたら、各メンテカバーを元通りに固定し、ロータカバーを固定ナット（２ヶ）で締めしっかりと固定し、作業を再開して下さい。

３．引っかかりの除去



(1) ひっかかりを除去した際に、送りローラ部が所定の位置まで下りますが、その際に手等がはさまれる恐れがあり大変危険ですので、フィードボックス・送りローラ取付部に直接触れないようにして下さい。

(2) 材料等がひっかかって、送りローラ取付部がきちんと下がらない場合は、角材・棒等で押して、解除して下さい。



(1)停止中・運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにして下さい。

(2))整備を行う時は、エンジンを停止して、送りローラにはさまれないように注意して下さい。

(3)ひっかかりを除去する際は、送りローラが落下してきて手等がはさまれたりすることがないように十二分に注意して作業を行っ下さい。

定期の点検・整備をするには

調子よく作業するために、定期的に行ないましょう

注　　意

ケガの防止や燃料への引火防止のため、点検・整備を行なうにあたり、次のことを厳守して下さい。

1．点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置にし、シフトレバーを「ニュートラル」位置にして、エンジンキーを外してから行って下さい。
2．エンジン回転中やエンジンが熱い間は注油、給油は絶対行わないで下さい。
3．燃料の取扱い時やエンジンの整備時はくわえ煙草・裸照明は絶対しないで下さい。
4．操作系の点検は、一部走行試験が必要であるため、平坦で広く障害物のない安全な場所で行って下さい。その際整備が必要な場合は１．項目内容を厳守して下さい。
5．取外したカバー類は元どおりに装着して下さい。

オイル交換

オイル交換の際には次のことに注意して行って下さい。

1．古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく故障の原因となります。定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油して下さい。

	オイル	規定量	交換時間
エンジン クランク室	SC 級以上 SAE #20～#30	1.4 ﾘｯﾄﾙ (ｹﾞｰｼﾞ 付)	初回 20 時間目 ２回以降 50 時間毎
走行 ミッション	ギヤ オイル ＃90	2 ﾘｯﾄﾙ	初回 50 時間目 ２回以降 200 時間毎
パワー パック	ISO VG46 相当粘度	3 ﾘｯﾄﾙ (ｹﾞｰｼﾞ 付)	300 時間毎

2．オイルの抜き取りはオイルが暖かいうちに行うと容易に抜くことができます。

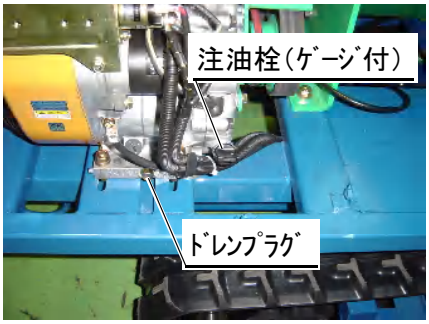
注 意

作業直後は、高温のため危険です。しばらくたってから交換作業して下さい。

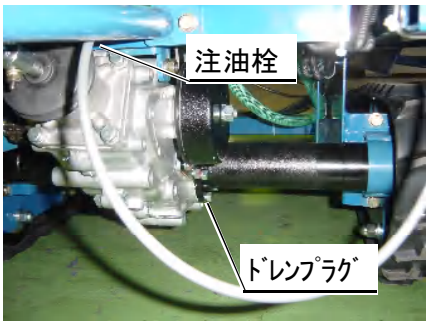
3．エンジンオイルの質および量の低下は焼付トラブルをまねきます。オイルの品質はＳＣ級以上の良質のもので外気温度に応じて、純正オイル、または、自動車用エンジンオイルを使用して下さい。

4．マルチグレードを使用する場合、外気温が高いときオイルの消費量は増す傾向にありますので注意して下さい。

エンジン



走行ミッション



パワーパック



パワーパック

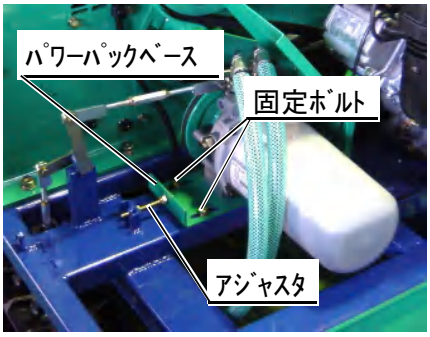
パワーパック



1．作動油の交換はドレンプラグを外し作動油を全量交換して下さい。

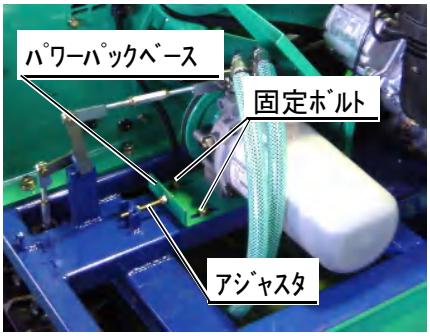
(1) パワーパックベースを固定しているM8の固定ボルト（4本）を外し、アジャスタを緩めてパワーパックベースを外します。

パワーパック



(2) パワーパックベースをパワーパックに固定しているM8の六角穴付ボルト（4本）を外してパワーパックベースを外します。

パワーパック



(3) パワーパック裏側のドレンプラグを外して作動油を抜き取ります。

(4) 排油後、ドレンプラグは排油後古いシールテープを取ってきれいに洗浄し新しいシールテープを巻いて締めて下さい。

2．必ず新しいオイルを使用し、泥およびゴミがタンク内に入らないように給油して下さい。

3．ISOVG４６相当粘度の油圧作動油を給油して下さい。

4．エンジンを停止しエンジンキーを外します。そして、作動油量がレベルゲージ付近にあるか点検します。油量が足りない場合は、給油口から作動油を補給して下さい。

5．パワーパックへの直接の散水洗浄は避け圧縮空気やブラシ・布などで泥土・ほこり・草屑等を落として下さい。

6．気温が０℃以下の場合は５分程度暖気運転を行って下さい。

油圧ホース

機械を使用する前に、油圧ホースとパイプのラインをチェックし、切れ・接続部のゆるみ・ねじれ・磨耗の有無を調べて下さい。

危　　険

1．エンジン回転中はホース・パイプ・口金具・継手に手をかざして漏れのチェックや点検をしないで下さい。
1．高圧で吹き出すオイルは皮膚を突き破るのに十分な勢いを持っていて危険です。
2．ホースやパイプは他のフレーム部分に接触させないで下さい。接触させると摩擦により磨耗します。
4．切れたり、磨耗したホースやパイプは機械の使用前に必ず交換して下さい。
5．接続部のゆるみやホース交換・整備でねじれたホースは機械の運転前に必ず直して下さい。
6．ねじれを直すには、ホース金具の固定部分を１本のスパナで押え、もう１本のスパナでホースナットをゆるめます。次にホースのねじれを直しホース口金具側のスパナは固定したまま、ホースナット側のスパナを回して締付けて下さい。
7．アセンブリホース、他継手器具は次表の推奨締付トルクを参照の上、適正な締付けを行って下さい。アッセンブリホース接続金具交差は±１０％程度です。このトルクはネジ部に油付着が無い場合です。

金具の締付トルク	３／８	３４（N･m）
	１／２	５９（N･m）
	３／４	１１８（N･m）

●公差は、±10%程度です。
●このﾄﾙｸはﾈｼﾞ部に油付着が無い場合です。

走行クラッチ

走行クラッチの入・切があまいと本機の走行や送りの作動に支障をきたす恐れがあります。走行や送りの作動に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。

走行クラッチの調整

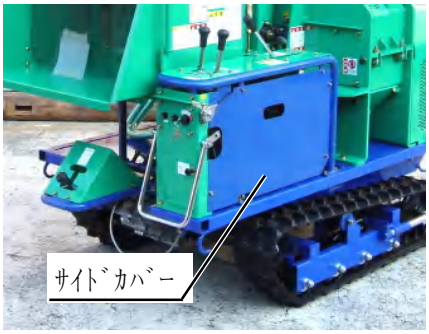
1．走行クラッチレバーを「切」位置にして下さい。

走行クラッチレバー



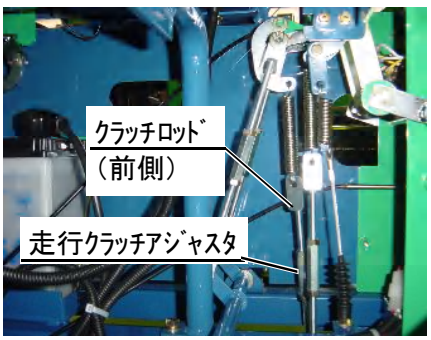
2．サイドカバーを固定しているM6 の固定ボルト（６本）を緩め、外します。

サイドカバー



3．２本のクラッチロッドのうち、前側のクラッチロッドのロックナットを緩めて下さい。

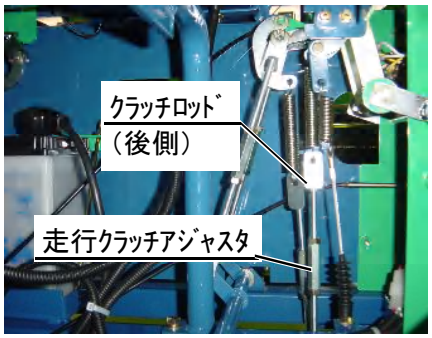
クラッチロッド



4．走行クラッチアジャスタを回し、走行クラッチの張りを、走行クラッチレバーが「切」位置で前側の走行クラッチにたるみができ、なおかつ「入」位置でたるみがなくなるように調整し、ロックナットを締めて下さい。

5．２本のクラッチロッドのうち、後側のクラッチロッドのロックナットを緩めて下さい。

クラッチロッド



6．走行クラッチアジャスタを回し、走行クラッチの張りを、走行クラッチレバーが「入」位置で後側の走行クラッチにたるみができ、なおかつ「切」位置でたるみがなくなるように調整し、ロックナットを締めて下さい。

7．走行クラッチレバーを「切」位置にしたとき、送りローラが確実に回転することを確認して下さい。また、走行クラッチＴレバーを「入」位置にしたときに確実に走行することを確認して下さい。

駐車ブレーキ

警　告

ブレーキの効きがあまいと本機の暴走等、非常に危険です。逆にブレーキを引きずると本機故障の原因となりますので、ブレーキの利き方に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。

1.　駐車ブレーキレバー引代調整

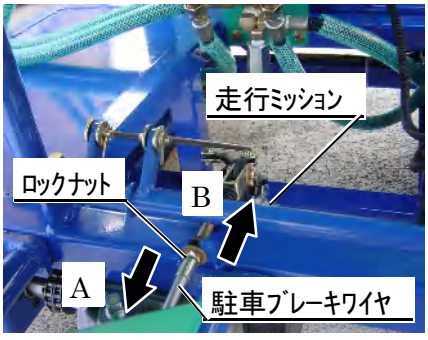
（１）走行クラッチレバーを「入」位置にして、駐車ブレーキワイヤをフリーの状態にして下さい。

走行クラッチレバー



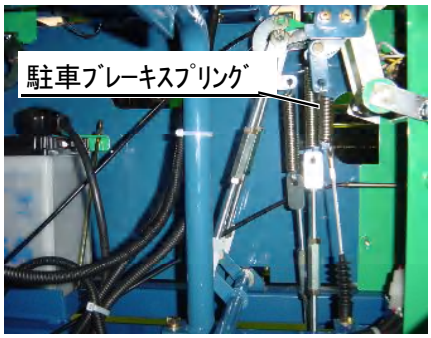
（２）駐車ブレーキワイヤのロックナットを緩めて下さい。

駐車ブレーキワイヤ



（３）ブレーキの効きがあまい場合、ナットを調整し、ワイヤ全体をＡ方向へ移動させ、走行クラッチレバーが「切」位置でブレーキワイヤ付け根のバネが３～４ｍｍ程度伸びるように調整して下さい。（走行クラッチレバー「切」位置で駐車ブレーキが効きます）

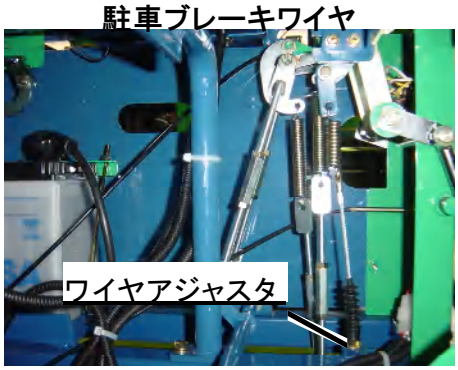
駐車ブレーキワイヤ



（３） ブレーキが引きずる場合、（３）と同じ要領でワイヤを B の方向に動かします。

（４） 走行ミッション側だけのアジャスト量だけで不足の時はレバー側のワイヤアジャスタも動かして調整して下さい。
調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

駐車ブレーキワイヤ



（５） 駐車ブレーキワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、駐車ブレーキワイヤを交換し駐車ブレーキレバーの引代調整を行って下さい。
また、シューの磨耗が大きいと考えられますので、走行ミッションのシューの点検を行って下さい。

2. 駐車ブレーキシューの点検と交換

駐車ブレーキの点検は 3 ケ月毎に行って下さい。

（１） シューの使用限度厚みは 1.5ｍｍですが、２ｍｍ以下の場合は新品と交換して下さい。新品との交換が済むまで機械の使用を控えて下さい。

（２） 駐車ブレーキの効きが甘い場合やシューが焼けている場合は、シューの厚みが使用限度内であっても、新品と交換して下さい。その他、ドラムの磨耗、変形、大きなキズ、ひび割れスプリングの破損やへたり、カムレバー（走行ミッションの駐車ブレーキアーム）のカム磨耗などが有る場合は新品と交換して下さい。

（３） シュー交換後に、**駐車ブレーキレバー引代調整**の調整を行って下さい。

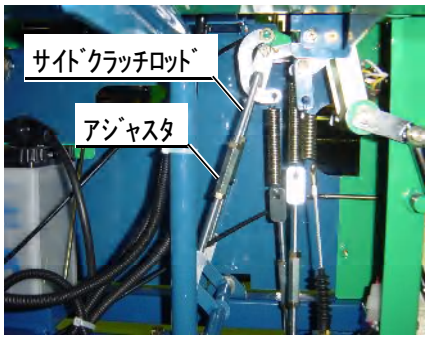
サイドクラッチ

サイドクラッチレバーの遊びが多くなり、効きがあまくなった場合、又は旋回がスムーズに行えない場合には、サイドクラッチロッドのアジャスタを下記の要領で調整して下さい。

サイドクラッチの調整

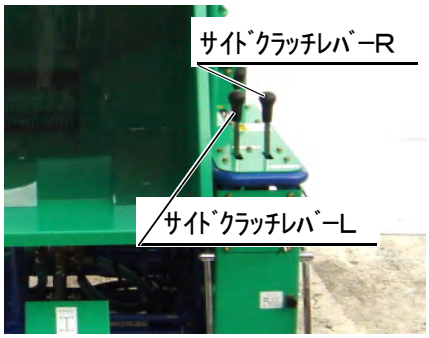
(1) サイドクラッチロッドのアジャスタのロックナットを緩めます。

サイド クラッチロッド



(2) アジャスタを回し、サイドクラッチロッドの張りをサイドクラッチレバー先端部での遊びが２～３ｍｍ程度になるように調整して下さい。

サイド クラッチレバー



(3) サイドクラッチレバーの戻りが悪い場合は、アジャスタをロッドが伸びる方向へサイドクラッチの切れが悪い場合は、アジャスタをロッドが縮む方向へ回して下さい。

(4) 調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

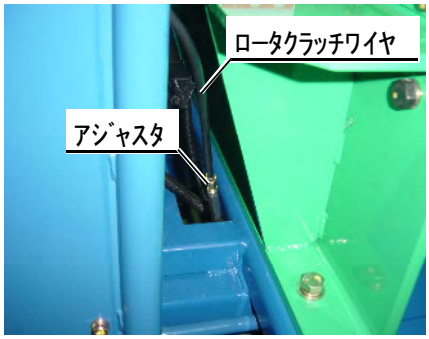
ロータクラッチ

ロータベルトが伸びるとベルトの張りが弱くなり、駆動力の伝達能力の低下やベルトの早期磨耗を引き起こす原因となりますので、定期的に点検・調整を行って下さい。

1. ロータクラッチワイヤの張り調整

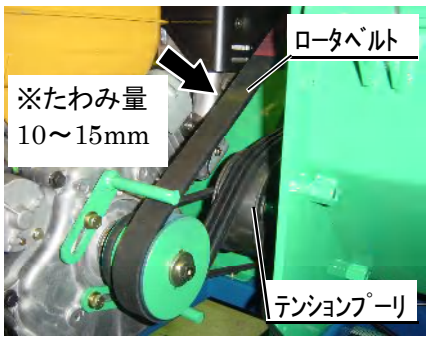
（１）ロータクラッチワイヤのアジャスタのロックナットを緩めて下さい。

ロータ クラッチワイヤ



（２）ロータベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを動かし、ワイヤが伸びる方向へ調整し、ロータクラッチレバー「入」位置で、テンションプーリの反対側のベルト中央を指で軽く押さえたときのたわみ量が１０～１５mm になり、「切」位置で確実にベルトが切れるようにして下さい。

ロータ ベルト



2. ロータベルトの張り直し

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、次の手順でベルトを張り直して下さい。

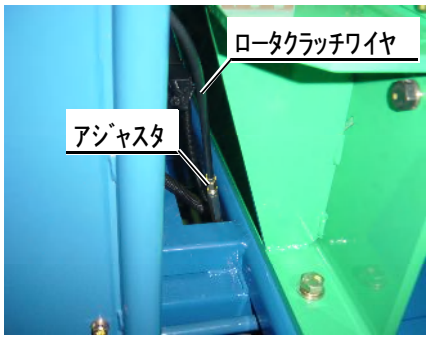
（１）ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

ロータクラッチレバー



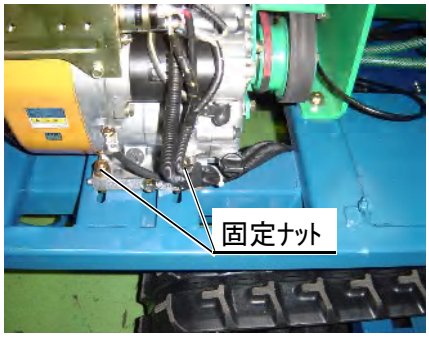
（２）ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。

ロータクラッチワイヤ



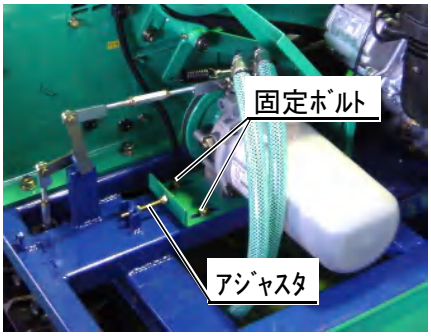
（３）エンジンを固定している M10 の固定ナット（４ヶ）を緩めて下さい。

エンジン



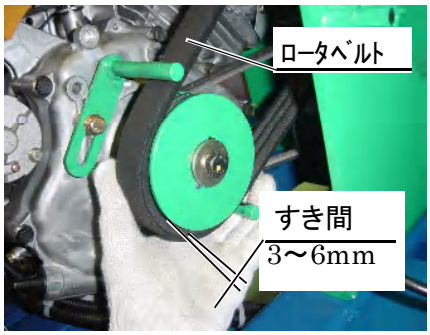
（４）パワーパックベースを固定している M8 の固定ボルト（４本）を緩め、アジャスタをパワーパックベルトの張りが緩む方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。

パワーパック



（５）エンジンをベルトが張る方向へ動かし、ロータベルトをエンジン側に軽く引いてエンジンプーリとベルトのすきまが３～６mm になるよう調整し、エンジンの固定ナットを締め付けて下さい。

ロータベルト



（６）**パワーパックベルトの張り調整**の要領でパワーパックベルトの張りを調整して下さい。

（７）**１．ロータクラッチワイヤの張り調整**の要領でロータクラッチワイヤの張り調整を行い、ベルト支エの位置調整を行ってロータクラッチレバー「切」位置で確実にベルトがきれるようにして下さい。

重 要

パワーパックを移動調整すると走行クラッチレバーの入切がズレます。
走行クラッチの入切があまいと本来の走行や送りの作動に支障をきたします。**走行クラッチの調整**の要領で各ロッドを調整して下さい。

3. ロータベルトの交換

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合や、ベルトが摩耗やほつれたりした場合は、次の方法で新しいベルトと交換して下さい。

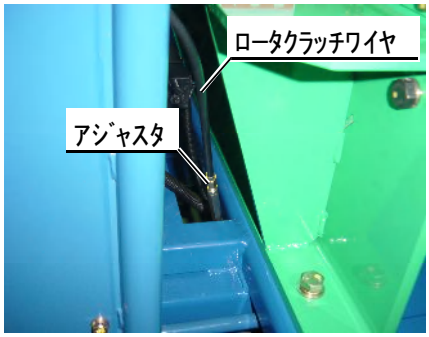
（1）ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

ロータクラッチレバー



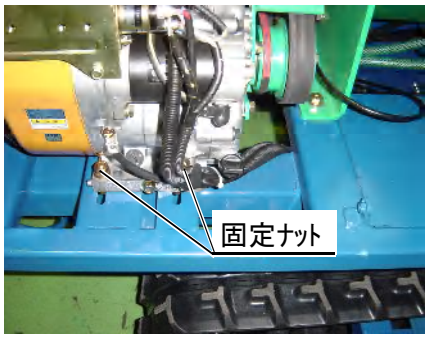
（2）ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。

ロータクラッチワイヤ



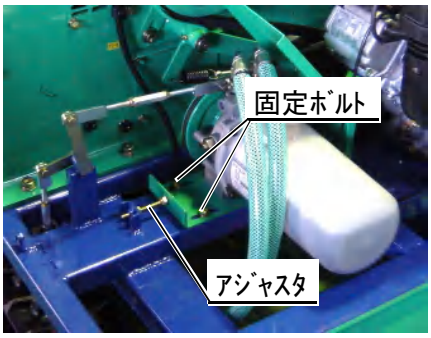
（3）エンジンを固定している M10 の固定ナット（４ヶ）を緩めて下さい。

エンジン



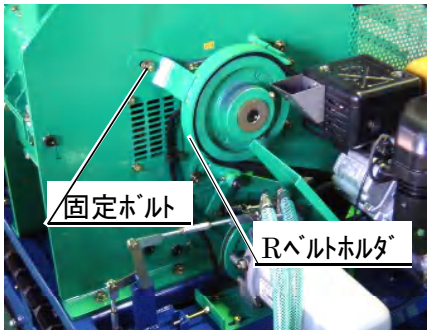
（4）パワーパックを固定している M8 の固定ボルト（４本）を緩め、アジャスタをパワーパックベルトの張りが緩む方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。

パワーパック



（5）Ｒベルトホルダを固定しているM10の固定ボルトを外し、Ｒベルトホルダを外して下さい。

Ｒベルト ホルダ



（6）古いロータベルトをエンジンプーリ側から外し、新しいロータベルトをロータプーリ側から取り付けます。

（7）**２．ロータベルトの張り直し**の要領でロータベルトの張り調整を行って下さい。

重 要

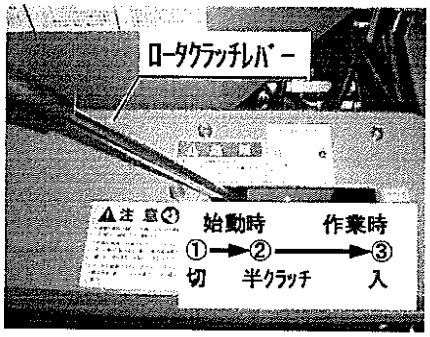
パワーパックを移動調整すると走行クラッチレバーの入切がズレます。
走行クラッチの入切があまいと本来の走行や送りの作動に支障をきたします。**走行クラッチの調整**の要領で各ロッドを調整して下さい。

4. ロータクラッチの「切」確認

調整が終わったらロータクラッチレバーを「切」位置にしたとき、ベルトのつき回りがないことを確認して下さい。

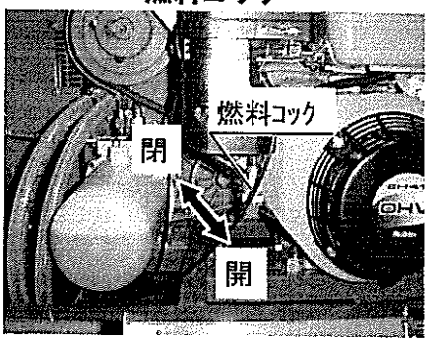
（1）フロントカバーは取り付けず、ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

ロータクラッチレバー

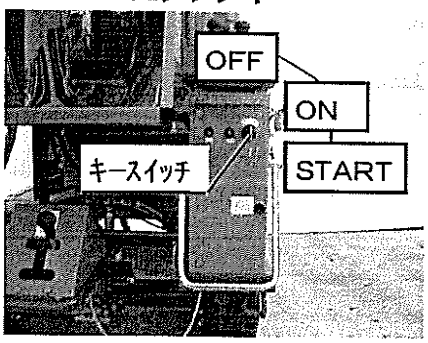


（2）燃料コックを「開」位置にし、エンジンキーを差し込んで下さい。

燃料コック



エンジンキー



（3）エンジンを始動させ、スロットルレバーを「中」位置にして下さい。

スロットルレバー



（4）ロータクラッチレバーを除々に「始動時」－「入」位置にして下さい。

（5）ロータクラッチレバーを、ゆっくり操作し「入」位置、「切」位置を繰り返し、確実に、ロータクラッチが切れることを確認して下さい。

（6）ロータクラッチが切れなかった場合は、エンジンを停止し、エンジンキーを外し、燃料コックを「閉」位置にして、ロータベルトのワイヤアジャスタでベルトの張り具合と各ベルト支エの位置を再調整して、確認作業を行って下さい。

（7）調整が終わったら、フロントカバーを元どおりに装着して下さい。

注 意

ベルトの装着方向は、プーリの回転方向でベルトの印刷文字の頭がくるようにして下さい。逆にすると、寿命が短くなります。

パワーパックベルト

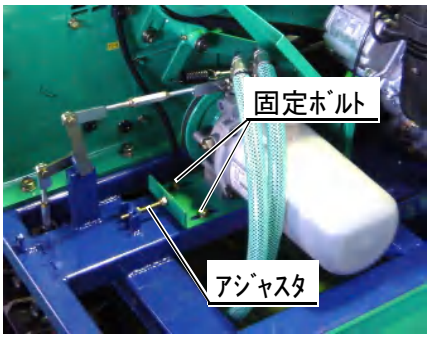
パワーパックベルトが伸びると、ベルトの張りが弱くなり、駆動力の伝達能力の低下による油圧作動部の作動不良やベルトの早期磨耗を引き起こす原因となりますので、定期的に点検・調整を行って下さい。

1. パワーパックベルトの張り調整

パワーパックベルトの張りが弱くなった場合は、次の手順でパワーパックベルトを張り直して下さい。

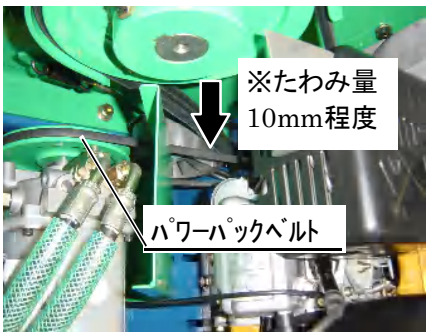
（１）パワーパックベースを固定しているM8 の固定ボルト（４本）とアジャスタのロックナットを緩めて下さい。

パワーパック



（２）アジャスタをベルトが張る方向へ回しパワーパックベルトを張っていき、ベルト中央を指で軽く押えたときのたわみ量が１０mm 程度になるようにアジャスタを調整して下さい。

パワーパック



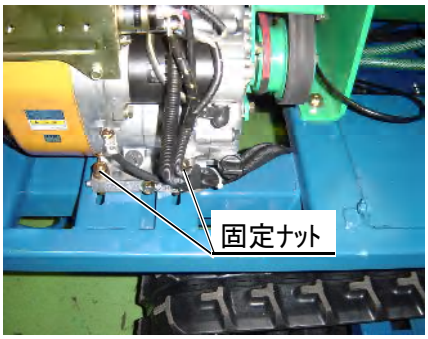
（３）調整後は、アジャスタのロックナットとパワーパックベースの固定ボルトを確実に締め付けて下さい。

2. パワーパックベルトの交換

ベルトが摩耗したりほつれたりした場合は、次の方法で新しいベルトと交換して下さい。

（１）エンジンを固定している M10 の固定ナット（４ヶ）を緩め、エンジンをベルトが緩む方向へ動かして下さい。

エンジン



（２）**ロータベルトの交換**の要領でロータベルトを外し、エンジンプーリとパワーパックプーリに掛かっている古いパワーパックベルトを外して下さい。

（３）新しいパワーパックベルトをエンジンプーリとパワーパックプーリに元どおりに掛け、ロータベルトを元どおりに掛けて下さい。

（４）**パワーパックベルトの張り直し**の要領でパワーパックベルトを張り直し、**ロータベルトの張り直し**の要領でロータベルトを張り直して下さい。

注 意 1

ベルトの装着方向は、プーリの回転方向にベルトの印刷文字の頭がくるようにして下さい。逆にすると、寿命が短くなります。

注 意 2

Ｖベルトは消耗します。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。

重 要

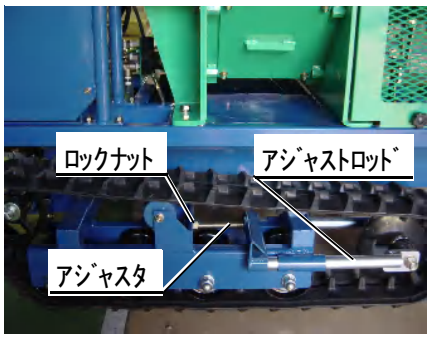
パワーパックを移動調整すると走行クラッチレバーの入切がズレます。
走行クラッチの入切があまいと本来の走行や送りの作動に支障をきたします。**走行クラッチの調整**の要領で各ロッドを調整して下さい。

クローラ

クローラは新品時には初期伸びが、使用時間の経過とともにスプロケットとのなじみによる緩みが生じてきますので、常に点検・整備を行い正常な状態を保つとともに、異常が確認された場合、次の要領でクローラの張りを調整して下さい。

１．クローラのアジャストロッドのロックナットを緩めて下さい。

クローラ



２．アジャスタを調整してアジャストロッドを動かし、クローラがたわまない程度に張りを調整して下さい。

３．調整後、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

注 意１

クローラは最初の１０～２０時間で必ず張りの調整をして下さい。

注 意２

左右のクローラの張りが異なると、直進性が悪くなりますので左右同じように張って下さい。

注 意３

クローラが緩んだ状態で使用しますとクローラ外れやスプロケットのかみ合い不良を起こし、クローラが張り過ぎた状態で使用しますと駆動各部の転がり摩擦抵抗の増大および抵抗の増大を招き、クローラの寿命を著しく縮めたり、走行力の低下を引き起こしますので定期的に点検し、調整を行って下さい。

バッテリ

注　　意

1．バッテリの電解液が手・皮膚・衣服についたときは、速やかに多量の水で洗い流して下さい。
2．バッテリの電解液が目に入ったときは、直ちに多量の水で約１５分間洗眼したのち、速やかに病院で治療を受けて下さい。

バッテリメーカーの取扱い説明書を全部読んで十分理解してから、点検・保守を行って下さい。

1. バッテリの保守

バッテリの保守作業はエンジンを停止しエンジンキーを外してから行って下さい。

（１）バッテリの仕様は、ユアサ 40B19R です。

（２）バッテリを取付けるとき、または取り外すときは、プラスおよびマイナスの端子が、機械の金属のパーツと同時に接触することがないように注意して下さい。
同時接触があると、大きな損傷をひき起こします。バッテリの保守の作業をするときはいつでも、“アース”ケーブル（－）を最後に接続し、取り外すときは最初に取り外して下さい。

（３）バッテリの接続部は常に、きれいに保ち、かつ締めておいて下さい。ケーブルが緩んでいるとバッテリの不具合を起こす事があります。端子のカバーは、正しい位置に付けて下さい。

（４）必要に応じてバッテリを石けんと水で掃除して下さい。但し、バッテリの中に石けんや水が入らないよう注意して下さい。

（５）スチール・ウールを使って、ターミナル接続部の表面を磨いて下さい。

（６）ターミナルとケーブルの端に、腐食を防ぐため、シリコン誘電グリースをうすく塗って下さい。

（７）バッテリ・ターミナルにケーブルをしっかり締めて下さい。

（８）バッテリの電解液量が不足している場合はＵＰＰＥＲラインまで精製水を補給して下さい。

2. バッテリの補充電

バッテリの補充電は、バッテリの全項を参照、またバッテリメーカーの取扱説明書を参照して行って下さい。

（１）充電の前にバッテリを機械から外して下さい。

（２）充電は風通しのよいところで行い、火気類を近づけないで下さい。

（３）チャージャーが「オフ」になっているかを確認して下さい。

（４）チャージャー・リードをバッテリへつないで下さい。チャージャーからのプラスのコネクタを、プラスのバッテリ・ターミナルへつないで下さい。チャージャーのマイナスコネクタを、マイナスのバッテリ・ターミナルへつないで下さい。

危　　険

ケガを防ぐため、チャージャーを「オン」にしたときは、バッテリから十分距離をおいて離れること。
バッテリが損傷していたり、内部でショートを起こしたバッテリは、爆発することがあります。

（５）各セルの液口栓を外して下さい。

（６）充電は下記のいずれかの方法で行います。チャージャーについてのメー

カーの指示図に従って下さい。
＊スターターが回らないような場合は、急速充電はしないで下さい。
＊完全充電時の電解液比重は 1.280／20° c です。

普通充電	急速充電
14 時間@2amps 8 時間@3.5amps	2. 5 時間@14amps 1. 5 時間@23amps 1 時間@35amps
40C以下で充電	50C以下で充電

（5） バッテリ充電のときに、ひどくガスが出たり、電解液が吹き出したり、バッテリのケースが熱く感じられたらバッテリの損傷を防ぐためアンペアを減ずるか、または補充電を一時的にやめて下さい。

（6） バッテリからチャージャー・リードを取外す前に、必ずチャージャーを「オフ」にして下さい。

3. バッテリの交換

バッテリが充電直後もエンジンスタータモータの回転音が、いつもより低くて弱い場合は、バッテリ交換の時期です。新しいバッテリと交換して下さい。バッテリ交換は、**バッテリの保守**の手順で行って下さい。

注 意

バッテリ交換は必ずエンジンを止めて作業して下さい。

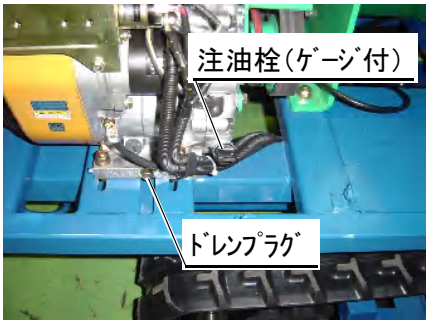
エ ン ジ ン

1. エンジンオイルの交換

＊**オイル交換**の項参照（P24）

（1）エンジンオイルの交換
初　　回　２０時間運転後に交換
第２回以降　５０時間運転ことに交換
オイル交換はエンジンを停止し、暖まっている時ドレンプラグを外して抜いて下さい。オイルゲージを外しておくと早く抜けます。

エンジン



注 意

熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意して下さい。

（2） オイルを注入する時は、ドレンプラグをしっかり締めて下さい。約 1．2 リットル入ります。

（3） エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪い物を使用するとエンジンの寿命を縮めます。常に良質できれいなオイルを規定量保つように注意して下さい。

2. 点火プラグの清掃と調整と交換

（1）プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナまたはワイヤブラシ等で汚れを落として下さい。

（2）電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて 0．6～0．7mm に調整して下さい。

（３） 点火プラグの掃除と電極間隙を調整し、それでもエンジンがかからない場合は新しい点火プラグと交換して下さい。（NGK　ＢＰ6ES）

（４） 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付けプラグキャップを確実に差し込んで下さい。

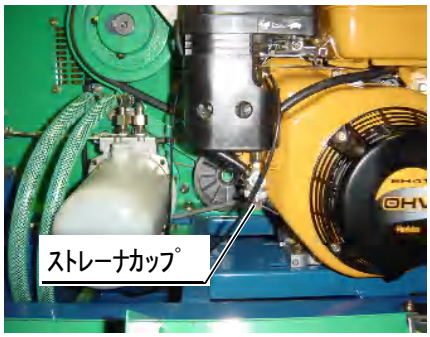
3. 燃料ストレーナの清掃

危 険

火気厳禁

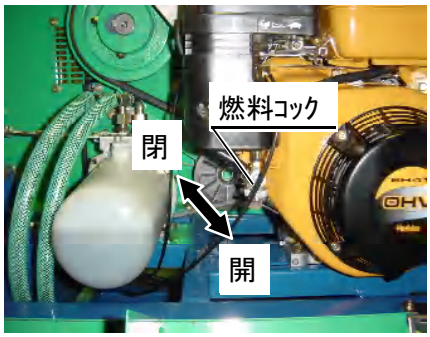
（１）ストレーナカップ内に水やゴミがたまっていないか調べて下さい。

燃料スト レーナ



（２）ゴミ等がたまっている時は、燃料コックを「閉」位置にし、ストレーナカップを左にまわして外して下さい。

燃料コック



（３）ストレーナカップ内の水やゴミを捨て、コシアミに付着しているゴミも捨てて、白灯油で洗浄して本体に完全に締め付けて下さい。

4. エアクリーナの清掃

空気中の塵挨を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどい時は、エンジンの始動不良、出力不足、運転の不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。
いつもきれいなエアクリーナエレメントにしておくよう心掛けて下さい。

危 険

火気厳禁

（１）エアクリーナエレメントの汚れがひどいときは、以下の要領で清掃して下さい。

１）ノブを外しカバー、エレメント（ウレタンフォーム付）を取り外して下さい。

２）ウレタンフオームは５０時間毎に清掃して下さい。

①汚れが著しい時は交換

②洗油（自灯油）で洗浄後、白灯油 3：エンジンオイル１の混合油に浸し、きつく絞って取り付けて下さい。

③ペーパーエレメントに取り付けて下さい。

（２）ペーパーエレメントは、頻繁に清掃して下さい。また、定期的に交換して下さい。

１)ペーパーエレメントは､軽くたたくか、内側から圧縮空気を吹き付けるか、軽く叩いて汚れを落として下さい。なお、汚れがひどい場合は交換して下さい。

２)ペーパーエレメントは運転２００時間毎、又は、シーズン毎のいずれか早い時期に交換して下さい。（汚れが著しい時はすぐに交換して下さい）

（３）清掃後、ペーパーエレメントを正しくクリーナベースに置き、ウレタンフォーム、グロメットが正しく装着されているか確認してカバーを取り付け、締め付けて下さい。

5. 燃料パイプの交換

危 険

火気厳禁

（1）使用頻度に関わらず、燃料パイプは２年で交換して下さい。燃料漏れは引火する危険があります。

（2）点検時､パイプにキズやヒビ等の損傷、燃料漏れ等のあるものは即交換して下さい。

注 意

点検・補給は、必ずエンジンを停止してから行って

6. 日常点検

ご使用になる前に、次の点検を行って下さい。



7. 定期点検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行して下さい。

運転時間	8時間（毎日）	50時間（毎週）	200時間（毎月）	500時間	1000時間
各部の清掃及び締付点検	●(毎日)				
エンジンオイルの点検・補給	●(毎日規定最大量まで補給する)				
エンジンオイル交換	（初回20時間目）	●			
点火プラグの清掃		●			
エアクリーナの清掃		●			
燃料ストレーナの清掃			●		
点火プラグ間隙清掃と調整			●		
シリンダヘッドのカーボン除去				◎	
気化器清掃				◎	
吸排気弁点検すり合わせ				◎	
オーバーホール				◎	◎

◎印の500時間、1000時間の点検項目は、販売店または整備工場にご用命下さい。

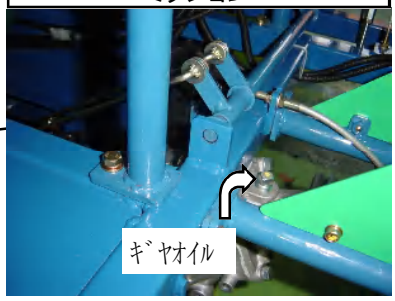
給油・注油するところ その１

注油位置　　給油位置

給脂（グリース）位置



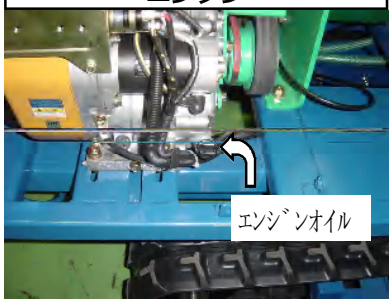
ミッション



パワーパック



エンジン

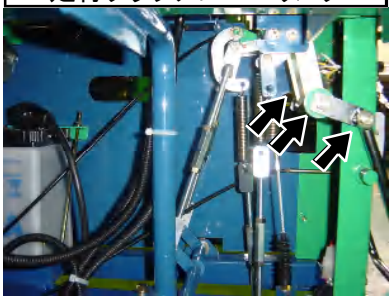


燃料タンク

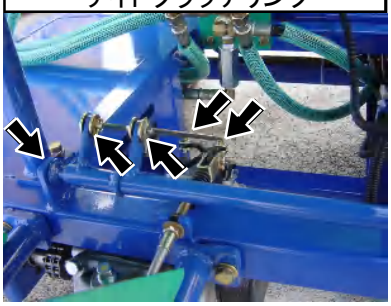




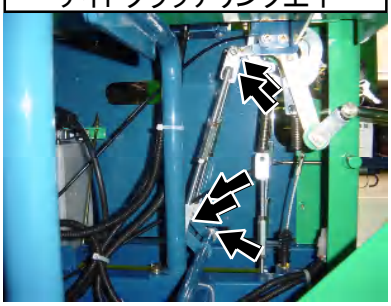
走行クラッチレバーリンク



サイドクラッチリンク



サイドクラッチリンク上下



走行クラッチリンク



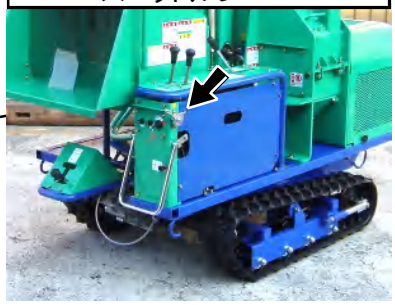
給油・注油するところ その２

注油位置　　給油位置

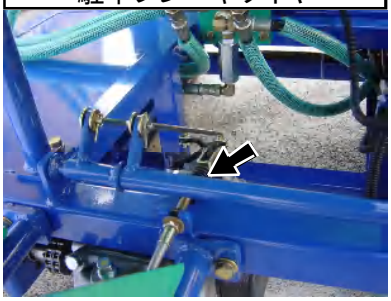
給脂（グリース）位置



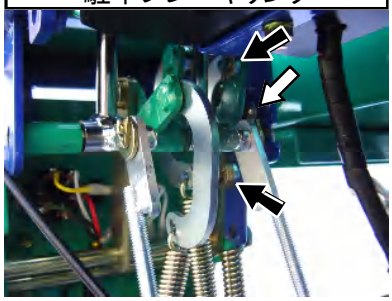
スロットルレバー



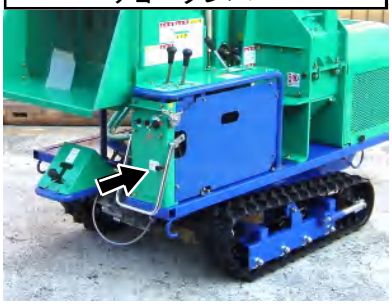
駐車ブレーキワイヤ



駐車ブレーキリンク

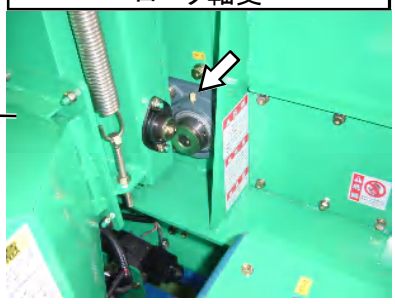


チョークレバー

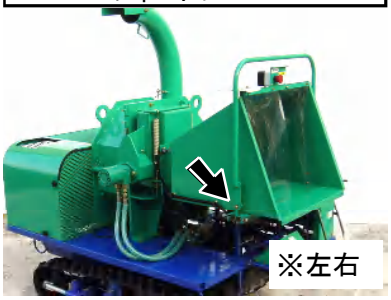




ロータ軸受



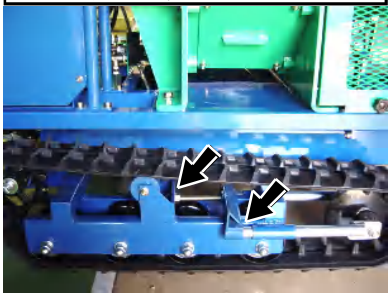
フィードレバー



ロータクラッチレバー



クローラアジャスタ



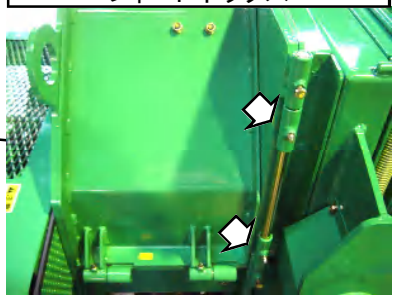
給油・注油するところ その3

注油位置　　給油位置

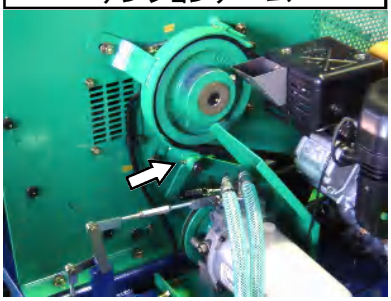
給脂（グリース）位置



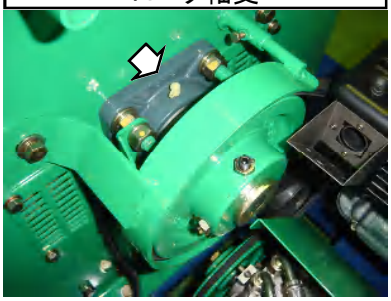
フィードボックス



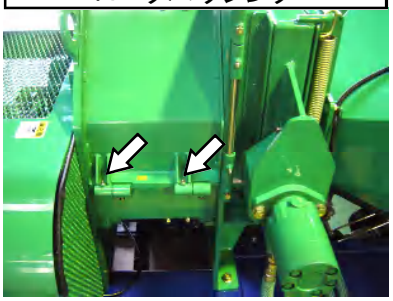
テンションアーム



ロータ軸受



ロータハウジング



締付するところ１

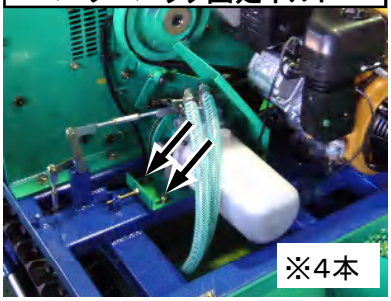
注意	ボルト・ナット部は多少ゆるむことがありますので、使用前に 各主要部の締付ボルト・ナットの増し締めを行って下さい。



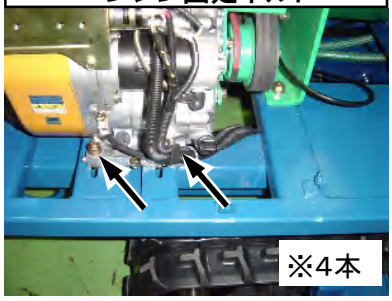
フィードボックス



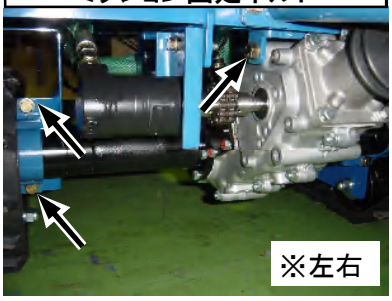
パワーパック固定ボルト



エンジン固定ボルト

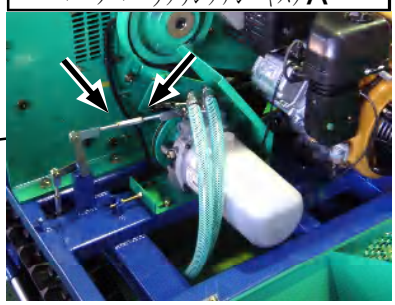


ミッション固定ボルト

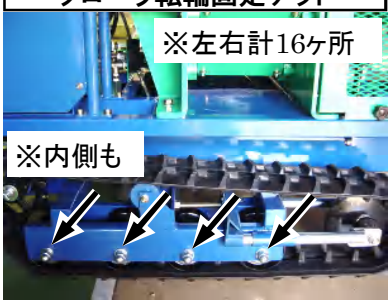




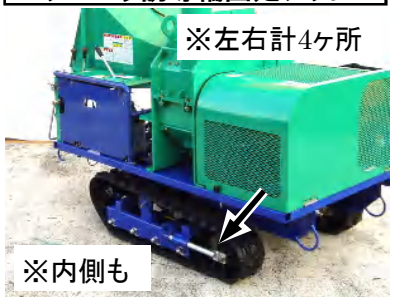
ﾊﾟﾜｰﾊﾟｯｸﾘﾝｸｱｼﾞｬｽﾀA



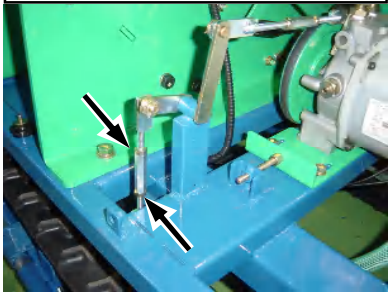
クローラ転輪固定ナット



クローラ誘導輪固定ナット



ﾊﾟﾜｰﾊﾟｯｸﾘﾝｸｱｼﾞｬｽﾀB

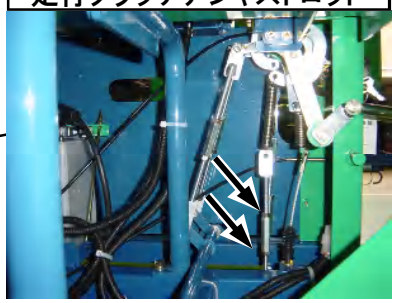


締付するところ２

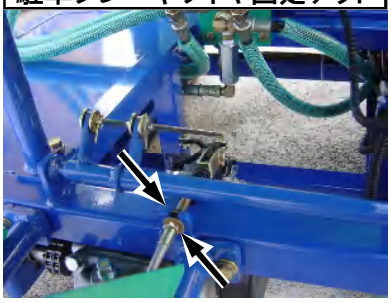
注意	ボルト・ナット部は多少ゆるむことがありますので、使用前に 各主要部の締付ボルト・ナットの増し締めを行って下さい。



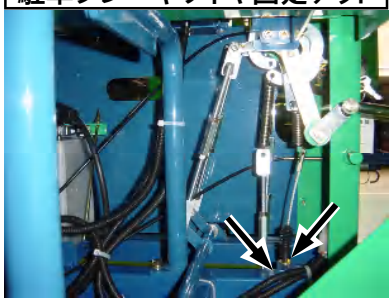
走行クラッチアジャストロッド



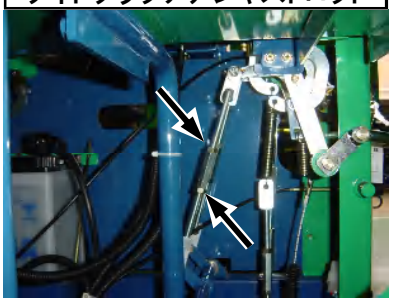
駐車ブレーキワイヤ固定ナット



駐車ブレーキワイヤ固定ナット

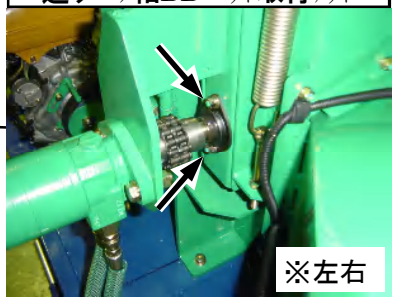


サイドクラッチアジャストロッド

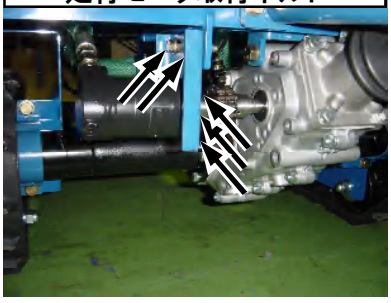




送りﾛｰﾗ軸BBﾕﾆｯﾄ取付ﾅｯﾄ



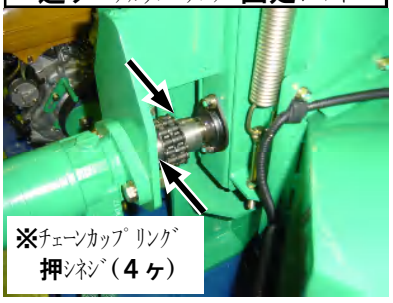
走行モータ取付ボルト



走行ﾓｰﾀｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ取付ﾎﾞﾙﾄ



送りﾓｰﾀｶｯﾌﾟﾘﾝｸﾞ固定ﾎﾞﾙﾄ

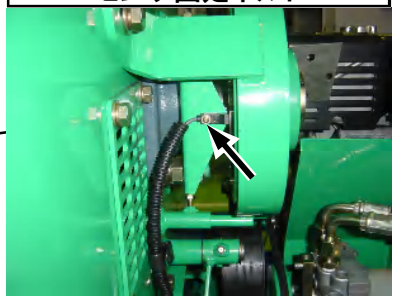


締付するところ３

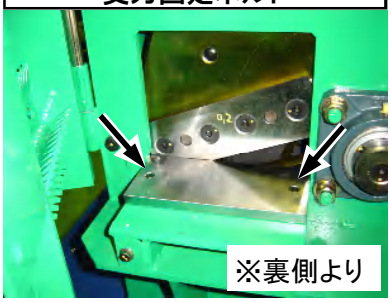
注意	ボルト・ナット部は多少ゆるむことがありますので、使用前に 各主要部の締付ボルト・ナットの増し締めを行って下さい。



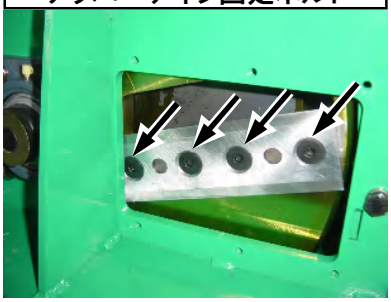
センサ固定ボルト



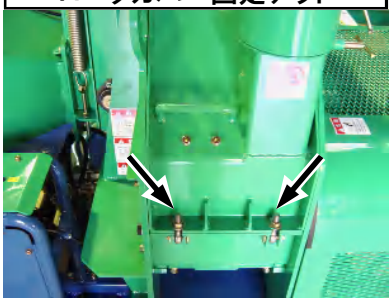
受刃固定ボルト



チッパーナイフ固定ボルト

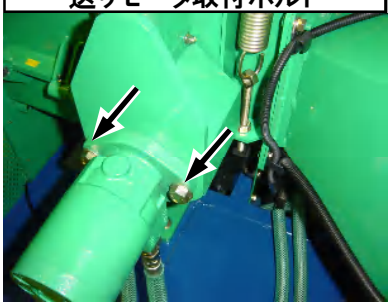


ロータカバー固定ナット

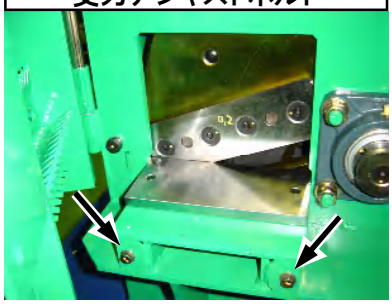




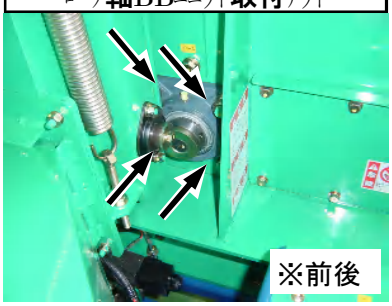
送りモータ取付ボルト



受刃アジャストボルト



ロータ軸BBユニット取付ナット



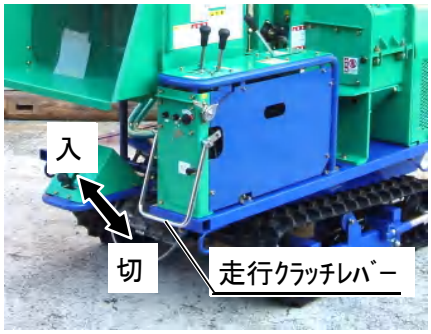
作業後の手入れ／長期保管

作業後の手入れ

1．手入れをする前に次の手順で準備作業を行って下さい。

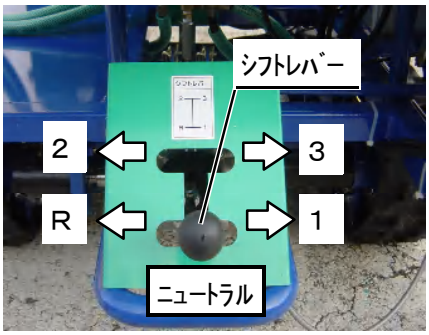
（1）走行クラッチレバーを「切」位置にして下さい

走行クラッチレバー



（2）。シフトレバーを「ニュートラル」位置にして下さい。

シフトレバー



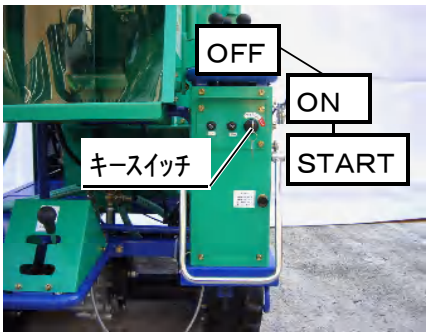
（3）ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

ロータクラッチレバー



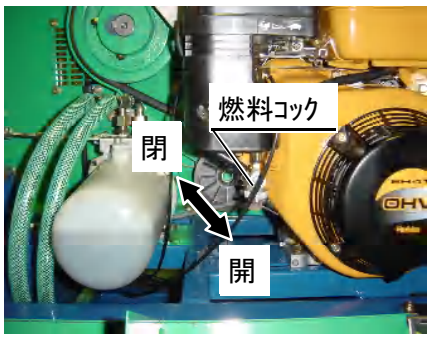
（4）エンジンキーを外して下さい。

エンジンキー



（5）燃料コックを「閉」位置にして下さい。

燃料コック



2．作業を行ったその日の内に、まず水洗いをして機械についたほこり・木屑・泥土等を洗い落して下さい。

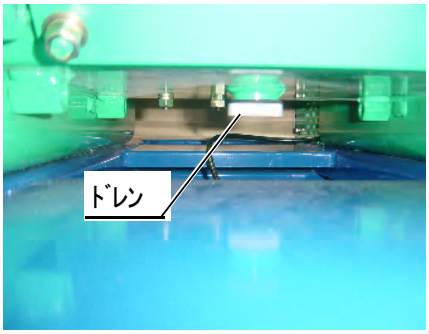
洗浄個所

(1) ホッパ
(2) 送りローラ
(3) ロータハウジング
(4) ベースパネル
(5) クローラ

注 意 1

ロータハウジングに水が入った場合は、ロータハウジング下部のドレンを外して水抜きをして下さい。

ロータハウジング



注 意 2

エンジンまわりパワーパックタンク部、バッテリ他電装品は水洗いせず、圧縮空気やブラシ・布などでほこり・木屑・泥土等を落として下さい。

3．水洗い後は水分を良く乾燥させて、各回転・しゅう動部に油をたっぷり注油して下さい。

4．3．で注油できなかった部分に、同様に油をたっぷり注油して下さい。

長期保管

1．各部をよく洗った後、機械の全注油、給脂（グリース）個所に、注油・給脂をして下さい。

2．燃料タンクの燃料を次の手順で抜き取っておいて下さい。

（1） 燃料コックを「閉」位置にして下さい。

（2） ストレーナカップを左にまわして外し、ストレーナカップ内の燃料とゴミを取り除いて下さい。

（3） 燃料コックの下に、受皿等を当ててから燃料コックを「開」位置にしてタンク内の燃料を抜いて下さい。

（4）ストレーナカップを元に戻して下さい。

3．エンジンを始動し、燃料が切れてエンジンが停止するまで運転します。

4．エンジンオイルは新しいオイルと交換しておいて下さい。

5．エアクリーナは、エレメントを外し清掃後、再度取り付けて下さい。

6．保管場所に移動後、エンジンキーを外しバッテリのアースケーブル（－）を外すか、バッテを取外して下さい。また、1ケ月に1回程度エンジンをかけて本機を動かし、エンジン・油圧系に潤滑油が行き渡るようにするとともに、補充電をして下さい。

7．各部を油布で清掃し、カバーをかけて下さい。格納は湿気、ホコリの少ない所にして下さい。屋外に放置する場合は、シートを被せて下さい。

注 意

寒冷地では、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面、又は角材の上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因となります。
又、凍結して運転不可能になった場合には無理に動かそうとせずに凍結箇所をお湯で溶かすか､凍結が溶けるまで待って下さい。（無理に動かした場合の事故については責任を負いかねますので特にご注意下さい。）

消 耗 部 品 一 欄 表

品　　名	品　　番	数／台	交換目安時間 備　　考
作 業 機 関 係			
チッパーナイフ	１１５０６２２０００	２	片面２５時間
受　　刃	１１５０６３２０００	１	片面７５時間
ディスクツメ	１１２０６２１０８００	２	５０時間
ロータベルト(3R3V-560)	Ａ８１０７０３０５６０	１	３００時間
パワーパックベルト(3V-450)	Ａ８１０７０１０４５０	１	５００時間
ボールベアリングユニット	Ａ７０１５２０９０００	２	１０００時間 ロータ
ボールベアリングユニット	Ａ７０５５２０５０００	２	１０００時間 送りローラ
エ ン ジ ン 関 係			
クリーナエレメント	２６７－３５００３－１１	１	２００時間
燃料ホース	０８５－１０６００－００	１	２年毎に交換
スパークプラグ	０６５－０１４０３－００	２	５００時間 （BP 6ES）
油　圧　関　係			
油圧ホース	１１２０３５０００００	６	２年毎に交換
バ ッ テ リ・電 気 関 係			
バッテリ	９１５０－９６１０００	１	２年毎に交換 （38Ｂ20Ｒ）
ヒューズ　Ａ	１２７０５８９０１００	１	全体（10A）
ヒューズ　Ｂ	１１５０５８９０２００	１	ﾊﾞﾙﾌﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ 基板（1A）

こんなトラブルが起ったら

エンジンを止めてから点検してください

	こんな確認をして	こう処置する
エンジンがかからないとき	(1)燃料が切れていないか	燃料の補給をする
	(2)燃料が燃焼室に吸込まれているか	キャブレタ、燃料ストレーナを清掃する
	(3)エンジンの始動手順が間違っていないか	正しい始動手順でエンジンをかける　P16 参照
	(4)燃料に水が入っていないか	燃料ストレーナに水が溜まっていれば、キャブレタや燃料ストレーナを外して水抜き、洗浄を行う　P32 参照
	(5)長期保管時の古い燃料が残っていないか	燃料タンク・ストレーナ・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料と交換する。特にキャブレタは、メーンジェットの穴が詰まるので念入りに掃除をする
	(6)点火プラグが悪くなっていないか	点火プラグを外し、濡れていれば、火であぶるか、乾いた布などで良く乾燥させる。 点火プラグの火花間隔（0.6～0.7 ㎜）を調整し、それでもかからない場合は新しい点火プラグと交換する 注意 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付け、プラグキャップを確実に差し込むこと　P32 参照
	(7)バッテリが弱くなっていないか 寿命ではないか	バッテリを充電する 新しいバッテリと交換する　P30 参照
エンジンの力がないとき	(1) エアクリーナにゴミがたまっていないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する　P33 参照
	(2) ブロワハウジングの吸気口にゴミがたまっていないか	ゴミを除去し、きれいに清掃する
	(3)エンジンオイルが不足していないか	エンジンオイルを補給する。また、オイルが古くなっている場合、新しいオイルと交換する　P24、P 32 参照
	(4)エンジンの回転は上がるか	スロットルレバーの遊びを減らす。スロットルワイヤのズレを直す
	(5)エンジンの圧縮はあるか	点火プラグ及びシリンダヘッドボルトを締め付ける ピストンリング等の磨耗も考えられるので購入先に相談する
各部に振動が多いとき	(1)エンジンが振れていないか	エンジン取付ボルトを強く締め直す
	(2)チッパーナイフ外れていないか 取付ボルトが外れたり緩んでいないか	チッパーナイフを正しく付け直す。 取付ボルトを強く締め直す
	(3)ロータハウジングが振れていないか	ロータハウジング取付ボルトを強く締め直す
	(4)ロータ軸ベアリングが破損していないか	ロータ軸ベアリングを交換する

送り制御・チェック項目

–送りローラが回転しない–

＜正転しない時＞

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	正送り非常停止スイッチ	押されている	正送り非常停止スイッチを解除する		右に回す
2	エンジン回転	低い	スロットルレバーを[高]にまわす		
3	エンジン回転	低い（ｽﾛｯﾄﾙﾜｲﾔのｽﾞﾚ）	スロットルワイヤのズレをなおす		
4	送りスイッチ（前方）	故障している	送りSWを交換する		
5	配線	断線している	配線コードを結線する		ｺﾝﾄﾛｰﾙBOX–電磁弁
6	電磁弁	故障している	電磁弁を交換する		
7	コントロール基板	故障している	コントロール基板を交換する		

＜逆転しない時＞

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	送りスイッチ（後方）	故障している	送りスイッチを交換する		
2	配線	断線している	配線コードを結線する		ｺﾝﾄﾛｰﾙBOX–電磁弁
3	電磁弁	故障している	電磁弁を交換する		

＜どちらも動かない時＞

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	パワーパックベルト	切れている	パワーパックベルトを交換する		
2	パワーパックベルト張り	緩んでいる	パワーパックベルトを張り直す		
3	パワーパック油量	不足している	作動油を補給する		
4	パワーパック切換アーム	送り側にきちんと入ってない	リンクの調整をする		
5	送りローラ	物がひっかかっている	ひっかかっている物を除去する		
6	配線	断線している	配線コードを結線する		キーSW–LS6
3	電磁弁	故障している	電磁弁を交換する		

–自動制御が効かない（自動負荷制御が効かない）–

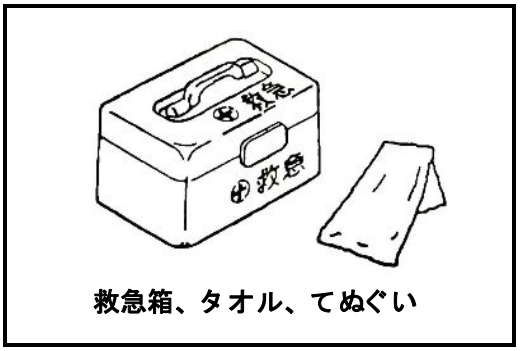
	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	ヒューズ（1A）	切れている	ヒューズ（1A）を交換する		
2	基板電源配線	断線している	配線コードを結線する		キーSW–基板
3	ｺﾝﾄﾛｰﾙ基板	故障している	ｺﾝﾄﾛｰﾙ基板を交換する		

万一の事故に備えて

-







●作業の前に

・万一の事故に備え、電話機もそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。

・作業現場には、呼子（笛）を持っていってください。

●発火に対する備え

危　　険

万一、エンジンから、発火または発煙したら、ただちに、機械を停止させ、キーをＯＦＦ位置にし、機械より降りて、まず消火すること。この場合、自分の身体の防御にも充分注意すること。

・エンジンから発火または排気口以外から発煙した場合、まず、機械を停止させ、キーをＯＦＦ位置にし機械より降りて、消火してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るよう注意してください。

・草、木などに類焼しないよう注意してください

・スコップで砂などをかけるか、または油火災消火用の消火器で消火してください。

●ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、救急用品としては、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗ふき用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

●応急手当

・応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

お 客 様 へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、

下記の点を明確にして、お買い求め先へお問合わせ下さい。

●ご使用機の型式名と機体番号は？購入年月日は？

型　　式	KCM141
機 体 番 号	
購入年月日	年　月　日

●ご使用状況は……？
（どんな作業のとき等）

●トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教え下さい。

●ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談下さい。

販売店名

担 当 者

Ｔ Ｅ Ｌ　　（　　）

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市藤田 566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6777（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

(C) 2009 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。